

看護学科

■ 看護学科 目次

基礎分野

科学的思考の基盤

現代社会と倫理	1
他者理解のための心理学	2
支援のための教育学	3
文章表現法	4
情報科学	5

人間と生活・社会の理解

文化と生活	6
英語 I (医療場面の英会話)	7
英語 II (文献読解)	8
人間理解	9
人間関係とコミュニケーション	10
健康とスポーツ	11
健康とレクリエーション	12
家族看護論	13

専門基礎分野

人体の構造と機能

体のしくみとはたらき I (からだを支える)	14
体のしくみとはたらき II (生きていくしくみ)	15
体のしくみとはたらき III (生命を維持する盾環)	16
体のしくみとはたらき IV (生命を維持する環境)	17
臨床生化学	18

疾病の成り立ちと回復の促進

病態論	19
疾病と治療 I (呼吸術環機能障害)	20
疾病と治療 II (栄養代謝機能障害)	21
疾病と治療 III (内部環境調整・生体防御機能障害)	22
疾病と治療 IV (運動・感覚機能障害)	23
治療論 I (臨床栄養学、リハビリテーション論)	24
治療論 II (がんの治療)	25
治療論 III (周手術期の治療)	26
臨床心理学	27
臨床薬理学	28
微生物と感染症	29

健康支援と社会保障制度

医療と法	30
健康支援の保健活動	31
社会福祉論	32
障がい者福祉論	33
医療安全	34

専門分野 I

基礎看護学

看護学概論	35
看護研究理論	36
看護研究の実際	37
看護の基本となる技術	38
生活行動を支える技術 I (生活環境と活動)	39
生活行動を支える技術 II (セルフケア)	40
基礎看護技術演習	41
対象を把握するための技術	42
看護を展開するための技術	43
健康の回復を支える技術 I (症状・経過に伴う技術)	44
健康の回復を支える技術 II (診断・治療・処置に伴う技術)	45

臨地実習	
看護の基本となる実習Ⅰ（看護を知る・日常生活援助方法を知る）	46
看護の基本となる実習Ⅱ（看護を展開するための基礎）	47

専門分野Ⅱ

成人看護学	
成人看護学概論	48
生命危機状態・手術を受ける人への看護	49
身体機能の回復を目指す人への看護	50
生活習慣の改善を必要とする人への看護	51
緩和ケアを必要とする人への看護	52
成人看護を展開するための技術	53
老年看護学	
老年看護学概論	54
高齢者の健康生活と支援	55
高齢者の健康障害と看護	56
老年看護を展開するための技術	57
小児看護学	
子ども看護学概論	58
子ども健康生活への援助	59
子どもに起こりやすい疾病	60
子どもの健康障害と看護	61
母性看護学	
母性看護学概論	62
母子の健康を整える看護	63
健康に障害のある母子の看護	64
女性の健康課題と看護	65
母子への看護を展開するための技術	66
精神看護学	
精神看護学概論	67
精神障がいをもつ人の理解	68
精神障がいをもつ人の看護	69
臨地実習	
成人看護学実習Ⅰ（生命危機状態・周手術期にある人への看護）	70
成人看護学実習Ⅱ（生活習慣の改善・緩和ケアを必要とする人への看護）	71
老年看護学実習Ⅰ（生活援助、療養・リハビリテーションを必要とする高齢者の看護）	72
老年看護学実習Ⅱ（治療を必要とする高齢者の看護）	73
小児看護学実習（健康・発達障害のある子どもの理解と援助、健康障害のある子どもの看護）	74
母性看護学実習（周産期の看護・乳児期の看護）	75
精神看護学実習	76

看護の統合と実践分野

在宅看護論	
在宅看護概論	77
在宅での生活行動を支える技術	78
医療依存度の高い療養者を支える技術	79
障がいをもつ人の理解と支援（知的障害・発達障害の理解）	80
障がいをもつ人の理解と支援（重症心身障害者の看護）	81
看護の統合と実践	
国際看護・災害看護	82
看護と理論	83
看護を提供するしくみ	84
総合判断技術演習	85
臨地実習	
在宅看護論実習（在宅支援実習・重度障害をもつ人の支援実習）	86
看護の統合と実践実習（看護のしくみの理解実習・看護判断総合実習）	87

年次・学期	1 年次・後期	担当科	看護学科
科目名	現代社会と倫理 講義・30 時間・1 単位	教員名	柴岡 元
概要 及び 目的	<p>社会人として幅広い知識を備えることは大切なことである。そして、知識が知恵となって、職業生活を円滑に進めていく上で必要な柔軟なものの考え方や判断力・行動力が身につけば申し分のないことである。</p> <p>このため高齢化・少子化が急速に進展していく今日、どのような職業にあっても、「社会人基礎力」とは何かについて学ぶことは大切なことである。</p> <p>さらに授業では、新聞やテレビなどのマスメディアで取り上げられた話題などについて、これを的確に理解できる力を養うとともに、憲法や税などに関する基本的な知識を身につけ、良識ある看護師を育成する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在の国の内外の出来事を考え理解するために、講義ごと毎回 30 分程度の時間をかけて、1 週間ごとの新聞のなかから話題を取り上げ、内容を掘り下げて解説する。質疑応答を大切にしたい。 2. 「現代社会」の特色を学び、「社会人基礎力」が身につくよう学習する。 3. 対人関係の基礎や自己理解について学習する。 4. 日本国憲法の基本的な性格を学習する。 5. 年金と税の基本的な内容について学習する。 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 出席点を加味する 		
テキスト	資料配付		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	他者理解のための心理学 講義・30時間・1単位	教員名	花房 香
概要 及び 目的	<p>本講義では、人の心はどのように発達して、われわれの行動にどのように影響しているのかなど、人をよりよくよく理解するために必要な心理学の基礎的な考え方や法則について学習する。また、実際の臨床現場で出会う患者や彼らを取り巻く人々、また看護者自身の心理的側面への理解を深めるために知っておく必要がある理論的背景について学習する。授業では、講義のほか、演習も適宜行う。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学とは何か 「心理学」という学問とその歴史について 2. 人間の心理学的理解 <ol style="list-style-type: none"> ①学習 さまざまな学習理論、記憶、知能など ②パーソナリティ パーソナリティ理論、心理検査など ③発達 各発達段階の特徴（胎児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期） 3. 患者と彼らを取り巻く人々の心理的理解と援助の方法 <ol style="list-style-type: none"> ①ストレスと不安 ストレスと不安のメカニズム、ストレスと不安の病理 ②家族 家族の役割、家族システムなど ③患者と医療者の心理 患者の情動、防衛機制、転移・逆転移など 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 2. 出席 3. 試験 		
テキスト	内山喜久雄・上里一郎 編「新看護心理学」ナカニシヤ出版		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	支援のための教育学 講義・30時間・1単位	教員名	栖原 靖
概要及び目的	<p>本講は、教育学の基礎理論の学習を通して、支援者としての看護師活動の一助となる事を目指し、その資質・能力を養う。</p> <p>①教育の営みと人の発達を理解する ②学習・指導・評価そしてその工夫 ③看護師としてのキャリア開発のための学習、という3つの視点から講義を行う。</p>		
授業内容	<p>単元Ⅰ オリエンテーション</p> <p>1. なぜ看護師をめざすのに「教育学」が必要なのか？ —教育的支援者としての看護師—</p> <p>2. 教育は人類に何をもたらしたのか？ —教育とは？ 教育の発生と果たす役割— —生物の遺伝、著作「エミール」(ルソー)、生理的早産説 (ポルトマン) —</p> <p>単元Ⅱ 人の発達過程の理解</p> <p>3. 人の発達段階と発達課題 —一般的な発達を知り、各支援に生かす—</p> <p>4. 認知・自己の発達・対人関係の発達について —認知能力の発達 (ピアジェ) 自己意識の発達 (エリクソン) 対人関係：社会化— —ホスピタリズムと愛情形成—</p> <p>単元Ⅲ 学習についての理解</p> <p>5. 人はどのように学習するのか？ —学習の領域 知識 (認知的領域) 技能 (精神運動的領域) 態度 (情意的領域) —</p> <p>6. 学習意欲を高める技法とは？ —学習の動機づけの基本原則 外発的動機づけと内発的動機づけ—</p> <p>単元Ⅳ 指導についての理解</p> <p>7. 指導者の役割とは？ —指導者の姿勢と6つの役割—</p> <p>8. 計画的な指導とは？ —わかりやすい学習目標 (RUMBAによるチェック) —</p> <p>単元Ⅴ 評価についての理解</p> <p>9. 評価の役割とは？ —評価の構成要素 評価主体・評価基準・評価時期—</p> <p>10. 効果を高める工夫とは？ —目標に適した評価の選択—</p> <p>単元Ⅵ 効果的な指導と学習について</p> <p>11. 指導に役立つコミュニケーション技術とは？ —ラポール状態 傾聴 アサーション 非 mm コミュニケーション 発問 指示—</p> <p>12. 学習を深めるディスカッションの技法とは？ —ディスカッションの教育的意義と協同学習 (バズ学習、シンク・ペア・シェア) —</p> <p>単元Ⅶ 看護師としての学習とキャリア開発</p> <p>13. 看護師としての学習とは？ 14. 看護師としてのキャリア開発とは？ 15. まとめ</p>		
評価方法	<p>1. 出席点 2. 講義内レポート 3. テスト</p>		
テキスト	<p>必要に応じて資料を配布。(A4 2穴ファイル用意しておいてください)：マーカー</p>		
備考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	看護学科
科目名	文章表現法 講義・30 時間・1 単位	教員名	廣本 勝裕
概要 及び 目的	多様な題材による総合的な言語活動を通じて、文章の読解力を伸ばすとともに、わかりやすく適切に伝えるための表現力を高めることを目的とします。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 科目のオリエンテーション 「これまでの国語学習を振り返り、『文章表現法』の学習内容を把握しよう。」 2 文章表現の基礎（1） 「日本語の成り立ちと特徴を踏まえ、文章表現の基本を確認しよう。」 3 文章表現の基礎（2） 「漢字・仮名・その他の記号などの表記の原則を理解しよう。」 4 わかりやすく適切に伝えるために（1） 「文章の特徴を踏まえてテーマを決め、形式を整えて記述しよう。」 5 わかりやすく適切に伝えるために（2） 「構成を工夫し、根拠や論拠を明確にして自分の意見を展開しよう。」 6 わかりやすく適切に伝えるために（3） 「情景や心情的描写を取り入れながら、自分の思いを随筆に表現しよう。」 7 表現を広げるために 「語句・語彙（熟語、慣用句、故事成語、同音異義語等）を充実しよう。」 8 表現を確かにするために 「表現技法（修辞法）を活用し、叙述や描写の精度を高めよう。」 9 表現を高めるために 「推敲や校正の作業を通じて、文章の向上を図ろう。」 10 敬語法の理解と実践 「相手や場面を念頭に置いた敬語の適切な使い方を習得しよう。」 11 各種の情報をもとにした表現の展開 「統計や調査結果等の資料を読み取り、分析・検討して感想や意見をまとめよう。」 12 様々な種類の文章を書く（1） 「短編小説を読んで、感想をまとめるとともに、その小短編説の続きを考えよう。」 13 様々な種類の文章を書く（2） 「形式を整え、相手の心に響く手紙を書こう。」 14 様々な種類の文章を書く（3） 「正しくわかりやすく伝えるための告知の表現を工夫しよう。」 15 まとめの学習 「これまでの学習を振り返り、多様な課題の解決を通じて身に付けたことを確認しよう。」 		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「各授業で取り組んだ課題の提出状況」 ◎ 第 15 時間目の「まとめの学習」の達成状況 		
テキスト	○ 授業ごとに配付するプリントを基本テキストとして授業を行います。		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業には、「国語辞典（電子辞書）」（※現在持っているものでよい）を持参してください。 ○ 授業で用いた教材・資料を保存し活用するための「フラットファイル」（厚さ 1.5cm 程度の標準的なものでよい）を 1 部用意してください。 		

年次・学期	1 年次・前期	担当科	看護学科
科目名	情報科学 講義・30 時間・1 単位	教員名	渡邊 佳代・三上 史哲
概要 及び 目的	<p>保健・医療分野におけるコンピュータ化の波は著しく、電子カルテシステムなど病院情報システムの導入に伴い、看護業務にもコンピュータを利活用する時代となった。</p> <p>そこで、本講義では医療における情報とは何かを学び、医療現場で発生する情報について、表計算ソフトを用いた統計処理、ワープロソフトを用いた報告書作成、プレゼンテーションソフトを用いた発表用スライド作成、などを学び、情報処理能力の向上を目指す。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「保健医療と情報」、「情報倫理と医療倫理」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療における情報とエビデンス情報に基づいた保健医療 ・ 医療における情報倫理と守秘義務、医の倫理に関する歴史 2. 「患者の権利と情報」、「個人情報の保護」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の権利と自己決定への支援、診療情報の開示 ・ 医療看護における個人情報、情報の利用の仕方 3. 「コンピュータリテラシーとセキュリティー」 <ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータ・インターネットのしくみとセキュリティー ・ パソコンの基本操作とタッチタイピング 4. 「看護と情報」、「医療における情報システム」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護における情報、病院情報システムと記録の仕方 5. 「調査によるデータ収集方法」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査を実施してデータを収集する ・ 表計算ソフト MicrosoftExcel の概要（表計算、計算・関数、グラフ作成） 6. 「Excel による統計解析 1」 <ul style="list-style-type: none"> ・ MicrosoftExcel の分析ツールを用いて基本統計量を求める 7～8. 「Excel による統計解析 2」 <ul style="list-style-type: none"> ・ MicrosoftExcel のピボットテーブルを用いて分割表、グラフを作成する 9. 「表計算ソフトによる文書作成」 <ul style="list-style-type: none"> ・ MicrosoftExcel を用いてクリニカルパスを作成する 10. 「既存の情報の収集方法」 <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットによる情報収集 11～13. 「文字情報の整理」 <ul style="list-style-type: none"> ・ MicrosoftWord を用いて報告書を作成する 14～15. 「情報の発表とコミュニケーション」 <ul style="list-style-type: none"> ・ MicrosoftPowerPoint の基本操作 ・ MicrosoftPowerPoint を用いて報告書の内容を発表用スライドに加工する 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講態度、出席日数 2. レポート、学期末試験 		
テキスト	<p>医学書院「看護情報学」 プリント配布</p>		
備考	<p>USB メモリを用意してください。</p>		

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	文化と生活 講義・30時間・1単位	教員名	柴岡 元
概要 及び 目的	<p>良き職業人は良き社会人でなくてはならない。多くの患者と接する看護師は、専門的な技量にとどまらず、幅広い知識が必要であり、また何よりも豊かな人間性が求められる。</p> <p>当学科では、教養を高め深める授業をおこなう。このため授業では、新聞やテレビなどのマスメディアで取り上げられた話題などについて、これを的確に理解できる力を養う。</p> <p>また、良き職業人としての人間力の基礎は、誰からも信頼される人間性である。このため、コミュニケーションの大切さを理解し、その基本的なスキルについて考え身につける。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在の身近な生活環境を考えるために、講義ごと毎回30分程度の時間をかけて、1週間ごとの新聞のなかから話題を取り上げ、内容を掘り下げて解説する。質疑応答を大切にしたい。 2. コミュニケーション力を磨くため、話し上手・聞き上手のこつや基本的なマナーを身につける。 3. 日本人と日本文化の良さを、その特性、言葉、食生活、文化遺産などを取り上げて考える。 4. 音楽や絵画に関する鑑賞力を養う。 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 出席点を加味する 		
テキスト	資料配布		
備考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	看護学科
科目名	英語 I (医療場面の英会話) 講義・30 時間・1 単位	教員名	宮宅 由美子
概要 及び 目的	日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考え方などを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
授業内容	1. Self-Introduction 2. Parts of Body 3. Jobs 4. Telling the Way 5. Talking on the Phone 6. Shopping 7. Who is it? ※ English songs and Quiz		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、授業態度、提出物 3. 発表点、小テスト他		
テキスト	テキストは使用しません。 講義ごとに、資料を配付します。		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	英語Ⅱ(文献読解) 講義・30時間・1単位	教員名	宮宅 由美子
概要 及び 目的	看護現場に直結した医療、健康、社会、生活などの身近な題材を扱い、英語で書かれた内容を理解する能力を養うと共に、将来の仕事に役立つ英語によるコミュニケーション能力の養成を目的とする。		
授業内容	Unit 1. What Worries Barbara? Unit 2. That's Mama's hair! Unit 3. Menstrual Problems Unit 4. Right or Left? Unit 5. How to Give First Aid Unit 6. Make a Restrom More Acesible to LGBT People Unit 7. Are You Being Abused? Unit 8. Giving Blod Unit 9. Living a Healthy Life Unit 10. Is the Treatment Diferent or Not? Unit 11. Is Hepatitis B Curable? Unit 12. Do you want to be skiny? Unit 13. You Need a Breast Self-Examination Unit 14. Foreign Nurses Struggle for the Japanese language		
評価方法	1. レポート・試験 2. 出席点・授業態度・提出物 3. 発表点・小テスト他		
テキスト	Take Care! SANSHUSHA		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科																											
科目名	人間理解 講義・15時間・1単位	教員名	双田 清美 他																											
概要及び目的	1. 看護の対象である人間に関心を持ち、さまざまな人々の思いや考えに触れ、人間の多様性や特性、また、価値観の違いを理解する。 2. 他者との対話をとおして、コミュニケーションを図るための基本となるものを学び、自分自身の思いや考えを自分の言葉で他者に表現することを学ぶ。																													
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>・導入 ・1つのテーマをもとに、グループで対話をとおして「問い」「考え」「語る」</td> <td>説明対話</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>敬天愛人に理念から学院の拮据的思考方を学ぶ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>万葉集をとおして、日本の四季と日本人の生き方、価値観について学ぶ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ハンセン氏病について学習し、人権について考える</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>DVD 視聴し、グループ対話をとおして「問い」「考え」「語る」</td> <td>DVD 視聴対話</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1つのテーマをもとに、グループで対話をとおして「問い」「考え」「語る」</td> <td>対話</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1～6までの授業の「問い」「考え」「語る」をとおして、自分たちでテーマを決めてグループで話し合いをする。</td> <td>ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>プレゼンテーションまとめ</td> <td>プレゼンテーション</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1コマの講義で時間があれば、テーマについて個人で考える時間とする。</p>			回数	内 容	授業形態	1	・導入 ・1つのテーマをもとに、グループで対話をとおして「問い」「考え」「語る」	説明対話	2	敬天愛人に理念から学院の拮据的思考方を学ぶ	講義	3	万葉集をとおして、日本の四季と日本人の生き方、価値観について学ぶ	講義	4	ハンセン氏病について学習し、人権について考える	講義	5	DVD 視聴し、グループ対話をとおして「問い」「考え」「語る」	DVD 視聴対話	6	1つのテーマをもとに、グループで対話をとおして「問い」「考え」「語る」	対話	7	1～6までの授業の「問い」「考え」「語る」をとおして、自分たちでテーマを決めてグループで話し合いをする。	ディスカッション	8	プレゼンテーションまとめ	プレゼンテーション
回数	内 容	授業形態																												
1	・導入 ・1つのテーマをもとに、グループで対話をとおして「問い」「考え」「語る」	説明対話																												
2	敬天愛人に理念から学院の拮据的思考方を学ぶ	講義																												
3	万葉集をとおして、日本の四季と日本人の生き方、価値観について学ぶ	講義																												
4	ハンセン氏病について学習し、人権について考える	講義																												
5	DVD 視聴し、グループ対話をとおして「問い」「考え」「語る」	DVD 視聴対話																												
6	1つのテーマをもとに、グループで対話をとおして「問い」「考え」「語る」	対話																												
7	1～6までの授業の「問い」「考え」「語る」をとおして、自分たちでテーマを決めてグループで話し合いをする。	ディスカッション																												
8	プレゼンテーションまとめ	プレゼンテーション																												
評価方法	1. 提出課題 授業終講後、振り返り用紙提出まとめのレポート 2. プレゼンテーション 3. 出席点																													
テキスト	必要時、資料を配布する。																													
備考																														

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	人間関係とコミュニケーション 講義・30時間・1単位	教員名	鈴木 晶子
概要 及び 目的	我々は常に周りの人々と言語・非言語のさまざまなメッセージを送り、そして受け取りながら関係性を築いている。信頼できる良好な関係性が生じることもあれば、誤解や勘違いなどから険悪な関係性が生まれることもある。人間関係の形成には、自己理解が重要であり、自分を知らずして他者を深く理解することは困難である。ここでは、自己理解と他者理解の重要性について演習なども行いながら学び、それぞれの発達期における人間関係の特徴やその中で生じやすい現象について理解する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係の理解 現在の人間関係について振り返る 2. 自己理解 自分を知る演習 3. 他者理解 価値観の違いについて知る演習 4. 対人魅力と他者理解のゆがみ 5. 集団における影響 6. コミュニケーション アサーション 7. エリクソンの発達課題 8. 乳児期の特徴と人間関係 9. 幼児期から青年期の特徴と人間関係 10. 成人期から高齢期の特徴と人間関係 11. 児童虐待 12. アディクションと共依存 13. 対象喪失と悲嘆 14. 認知症と認知症ケア 15. テスト 		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習やグループワークに取り組む姿勢 ・提出物 ・試験 		
テキスト			
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	健康とスポーツ 講義・30時間・1単位	教員名	南波 紀子
概要 及び 目的	健康の維持・増進のための運動の意義について考え、運動による身体・精神面への影響について理解し、日常生活における保健の基礎知識を深め、自身の健康増進を図る。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康とはなにか <ul style="list-style-type: none"> ・栄養、休養、運動と健康 ・生活のリズムと健康 ・食生活と健康 ・労働と健康 2. 運動処方と体力づくり <ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力づくり ・バレーボール、バドミントン、卓球、マット運動、なわとび ・野外活動 ・ニュースポーツ 		
評価方法	1. 出席点、遅刻、早退、受講態度の総合で評価する。		
テキスト	使用しない。 必要に応じてプリントを配布		
備考	スポーツウェア、屋内、屋外シューズ、ゼッケンの用意		

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	健康とレクリエーション 講義・15時間・1単位	教員名	大林 秀行
概要 及び 目的	<p>伝統文化の運動技術をとおして、身体表現の知識と対人技術を身につけ、対象者との豊かな関わり方や健康づくりへの実践力を身につける。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の伝統文化の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 剣道の歴史 ・ 武道とスポーツの違い 2. 剣道の特性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教・儒教の理解 ・ 日本剣道形の習得 3. 剣道の心と看護の心 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人としての生き方、在り方 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実技テスト 2. レポート 3. 学習意欲 		
テキスト	プリントを配布する		
備考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	看護学科																											
科目名	家族看護論 講義・15時間・1単位	教員名	双田 清美																											
概要 及び 目的	<p>看護の視点として、患者支援と同様家族支援は当然のケアとして位置づけられている。家族看護の目的は、患者と家族の意思決定を支え、家族機能がより良い方向へ向かうように支援することである。</p> <p>この科目では、学習者それぞれが自分の家族について関心をもち家族とは何かを考える。また、演習をとおして、家族が入院することで他の家族にどのような影響があるのか考え、家族機能がより良い方向へ変化するためにはどのような看護が必要かを理解する。</p>																													
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> 1. 家族看護論オリエンテーション 2. 『家族看護論のテーマ』 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 家族の危機的状況を解決するためには どのように看護が支援すればよいか </div> 3. 自分が考える家族とは ① ジェノグラム作成 ② 自分が家族と思っているのはどの範囲か？ ③ 家族の出来事で印象に残っていること ④ ①～③をとおして「私が考える家族とは」をまとめる </td> <td> 演習 課題学習 </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「チームで家族看護を考える」パフォーマンス課題の提示 ・事例家族のジェノグラムを作成 ・チームを結成し、課題解決に向けて話し合い</td> <td>GW</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>パフォーマンス課題の解決に向けた講義 1. 家族看護モデルの概要 2. 「カルガリー式看護モデル」の活用</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「チームで家族看護を考える」チームで話し合い</td> <td>GW</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「チームで家族看護を考える」チームで話し合い</td> <td>GW</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「チームで家族看護を考える」プレゼンテーション・評価</td> <td>プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「個人で家族看護を考える」パフォーマンス課題の資料作成</td> <td>自己学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>「個人で家族看護を考える」課題の相互評価 ミニ終講テスト：(テキスト持ち込み可)</td> <td>相互評価テスト</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内 容	授業形態	1	1. 家族看護論オリエンテーション 2. 『家族看護論のテーマ』 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 家族の危機的状況を解決するためには どのように看護が支援すればよいか </div> 3. 自分が考える家族とは ① ジェノグラム作成 ② 自分が家族と思っているのはどの範囲か？ ③ 家族の出来事で印象に残っていること ④ ①～③をとおして「私が考える家族とは」をまとめる	演習 課題学習	2	「チームで家族看護を考える」パフォーマンス課題の提示 ・事例家族のジェノグラムを作成 ・チームを結成し、課題解決に向けて話し合い	GW	3	パフォーマンス課題の解決に向けた講義 1. 家族看護モデルの概要 2. 「カルガリー式看護モデル」の活用	講義	4	「チームで家族看護を考える」チームで話し合い	GW	5	「チームで家族看護を考える」チームで話し合い	GW	6	「チームで家族看護を考える」プレゼンテーション・評価	プレゼンテーション	7	「個人で家族看護を考える」パフォーマンス課題の資料作成	自己学習	8	「個人で家族看護を考える」課題の相互評価 ミニ終講テスト：(テキスト持ち込み可)	相互評価テスト
回数	内 容	授業形態																												
1	1. 家族看護論オリエンテーション 2. 『家族看護論のテーマ』 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 家族の危機的状況を解決するためには どのように看護が支援すればよいか </div> 3. 自分が考える家族とは ① ジェノグラム作成 ② 自分が家族と思っているのはどの範囲か？ ③ 家族の出来事で印象に残っていること ④ ①～③をとおして「私が考える家族とは」をまとめる	演習 課題学習																												
2	「チームで家族看護を考える」パフォーマンス課題の提示 ・事例家族のジェノグラムを作成 ・チームを結成し、課題解決に向けて話し合い	GW																												
3	パフォーマンス課題の解決に向けた講義 1. 家族看護モデルの概要 2. 「カルガリー式看護モデル」の活用	講義																												
4	「チームで家族看護を考える」チームで話し合い	GW																												
5	「チームで家族看護を考える」チームで話し合い	GW																												
6	「チームで家族看護を考える」プレゼンテーション・評価	プレゼンテーション																												
7	「個人で家族看護を考える」パフォーマンス課題の資料作成	自己学習																												
8	「個人で家族看護を考える」課題の相互評価 ミニ終講テスト：(テキスト持ち込み可)	相互評価テスト																												
評価方法	知識 ・ 理解 : 終講テスト 技 能 : プレゼンテーション (グループ点) 思考・判断・表現 : 作成資料・レポート 授業の取り組み (講義、グループワークの参加度、出席状況)																													
テキスト	『グループワークで学ぶ 家族看護論』 医歯薬出版 参考文献 ・ 家族看護学 理論と実践、日本看護協会出版会 ・ 印刷資料																													
備考																														

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	体のしくみとはたらき I 講義・30時間・1単位	教員名	柳原 衛
概要 及び 目的	<p>ヒトの身体の構造と機能の正常な状態について、系統的に理解できることをねらいとする。人体の発生、身体の形態と機能を、各器官別に系統的に関連づけて理解し、生命を保つために必要な構造と機能を理解する。</p> <p>体のしくみとはたらき I においては、人体の素材としての細胞・組織、および体の支持と運動について学ぶ。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の概略 2. 細胞の構造 3. 核酸とタンパク質合成 4. 細胞膜の構造と機能 5. 組織の種類と特徴 6. 人体を表す基本用語 7. 体液とホメオスタシス 8. 骨の構造、骨の発生と成長 9. 関節の構造と種類 10. 骨格筋の構造と作用 11. 体幹の骨格と筋 12. 上肢の骨格と筋 13. 下肢の骨格と筋 14. 頭頸部の骨格と筋 15. 筋の収縮 16. 期末試験 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末テスト 2. 授業中に行う小テスト 3. 出席および授業への取り組み姿勢 		
テキスト	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 (1) 「解剖生理学」、医学書院</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	体のしくみとはたらきⅡ 講義・30時間・1単位	教員名	柳原 衛
概要及び目的	<p>ヒトの身体の構造と機能の正常な状態について、系統的に理解できることをねらいとする。人体の発生、身体の形態と機能を、各器官別に系統的に関連づけて理解し、生命を保つために必要な構造と機能を理解する。</p> <p>体のしくみとはたらきⅡにおいては、栄養の消化と吸収、情報の受容と処理、および、生殖・発生と老化のしくみについて学ぶ。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口・咽頭・食道の構造と機能 2. 腹部消化管の構造と機能 3. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4. 消化と吸収 5. 神経細胞の構造と生理 6. 脳の発生、脳室と髄膜 7. 脊髄の構造と機能 8. 脳幹の構造と機能 9. 終脳の構造と機能 10. 脊髄神経と脳神経 11. 神経伝導路、高次神経機能 12. 眼の構造と視覚 13. 耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚、痛覚 14. 生殖器系、受精と胎児の発生、成長と老化 15. 期末試験 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末テスト 2. 授業中に行う小テスト 3. 出席および授業への取り組み姿勢 		
テキスト	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 (1)「解剖生理学」、医学書院</p>		
備考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	看護学科
科目名	体のしくみとはたらきⅢ (生命を維持する循環) 講義・30 時間・1 単位	教員名	片山 雅博
概要 及び 目的	<p>医学の学習は、正常な人体の形態と構造（解剖学）を知り、その機能と役割（生理学）を学ぶことから始まります。「解剖・生理学」を学ぶことによって初めて、病気の成り立ち・仕組み（病態生理）やその症状・経過が理解でき、それらに基づいて正しい診断・治療が可能となり、適切な看護ができます。</p> <p>すなわち、体のしくみとはたらきを学ぶ「解剖・生理学」は医学体系の基礎となる学問であり、人体の構造・機能をしっかりと学ぶことによって、他の医学に関する学問すべてが容易に理解可能となります。（反対に、解剖・生理学をおろそかにすれば、他の授業内容が理解できないこととなります）</p> <p>この「体のしくみとはたらき m」では主として生命の維持に関係する「呼吸・循環」（肺、心臓、血液）を中心に講義を進めていきます。</p>		
授業内容	<p>1. ガイダンス：「解剖・生理学」とは、その学び方</p> <p>第 3 章 呼吸と血液の働き</p> <p>2. 呼吸器の構造</p> <p>3. 呼吸とは：呼吸運動（呼吸筋の働き）、換気、外呼吸と内呼吸</p> <p>4. 呼吸器の機能①：肺胞の機能、呼吸のメカニズム</p> <p>5. 呼吸器の機能②：呼吸気量（1 回換気量、肺活量、1 秒量・1 秒率）</p> <p>6. 呼吸器の機能③：ガス交換とガス（酸素と二酸化炭素）の運搬、エネルギー産生</p> <p>7. 呼吸運動の調節：呼吸中枢、血液ガス（PaO₂、PCO₂、血液 PH）、病的呼吸</p> <p>8. 呼吸器系の病態生理：換気障害、拡散障害</p> <p>9. 血液の組成と血球（赤血球、白血球、血小板）の分化</p> <p>10. 血液の組成と機能：赤血球の働き、白血球の働き</p> <p>11. 血液凝固の仕組み（血小板、凝固因子の働き）、血液型</p> <p>第 4 章 血液の循環とその調節</p> <p>12. 心臓の構造</p> <p>13. 心臓の拍出機能：心臓の興奮とその伝播、心電図</p> <p>14. 心臓の拍出機能：心臓収縮、血圧とその調節</p> <p>15. まとめ</p>		
評価方法	呼吸・循環系についての解剖生理の理解度を筆記試験により評価・判定する。		
テキスト	系統看護学講座：専門分野 人体の構造と機能 [1]「解剖生理学」 医学書院		
備考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	看護学科
科目名	体のしくみとはたらきⅣ (生命を維持する環境) 講義・30 時間・1 単位	教員名	片山 雅博
概要 及び 目的	<p>医学の学習は、正常な人体の形態と構造（解剖学）を知り、その機能と役割（生理学）を学ぶことから始まります。「解剖・生理学」を学ぶことによって初めて、病気の成り立ち・仕組み（病態生理）やその症状・経過が理解でき、それらに基づいて正しい診断・治療が可能となり、適切な看護ができます。すなわち、体のしくみとはたらきを学ぶ「解剖・生理学」は医学体系の基礎となる学問であり、人体の構造・機能をしっかりと学ぶことによって、他の医学に関する学問すべてが容易に理解可能となります。（反対に、解剖・生理学をおろそかにすれば、他の授業内容が理解できないこととなります）</p> <p>この「体のしくみとはたらきⅣ」では主として生命を維持する「環境」（腎臓、内分泌系、免疫）を中心に講義を進めていきます。</p>		
授業内容	<p>第 4 章 血液の循環とその調節</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血管の構造、全身の動脈・静脈 2. 血液循環の調節 血圧、血圧・血流量の調節 3. 循環器系の病態生理、リンパ系 <p>第 5 章 体液の調節と尿の生成</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 腎臓の構造とその働き 5. 糸球体機能（濾過）、傍糸球体装置の機能（レニン、エリスロポエチン） 6. 尿細管の機能、排尿路、 7. 体液の調節 脱水、電解質異常、酸塩基平衡 <p>第 6 章 内臓機能の調節</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 自律神経による調節 交感神経と副交感神経の構造と働き（神経伝達物質） 9. 内分泌系による調節 ホルモンの作用機序 10. 内分泌腺と内分泌細胞Ⅰ 視床下部一下垂体系、甲状腺 11. 内分泌腺と内分泌細胞Ⅱ 膵臓、副腎、性腺 12. ホルモン分泌の調節 糖代謝、カルシウム代謝、高血圧 <p>第 9 章 外部環境からの防御</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 免疫の仕組み 細胞性免疫、液性免疫、予防接種、アレルギー 14. 皮膚の構造と機能、体温とその調節 15. その他 		
評価方法	腎臓、内分泌系、免疫についての解剖生理の理解度を筆記試験により評価・判定する。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 人体の構造と機能 [1]「解剖生理学」 医学書院		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	臨床生化学 講義・15時間・1単位	教員名	清水 憲二
概要 及び 目的	<p>体がどのような成分から成り立ち、それがどのように壊され、作られ、調節されて健康を維持しているかを物質のレベルで明らかにすることを学習する。また、これらの知識を学び、健康な場合と病んだ場合を比較して、どのような変化がみられているのか、どのようにすれば正常に戻るかを学習することで疾患を理解するのに結びつける。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代謝総論 2. 生命維持に必要な栄養素の構造と性質 3. 酵素 4. (1) 糖質代謝 (2) 脂質代謝 (3) タンパク質とアミノ酸の代謝 (4) 核酸・ヌクレオチドの代謝 5. エネルギー代謝の統合と制御 6. 遺伝情報 7. 代謝と疾患 		
評価方法	<p>定期試験の成績を中心に、出席状況、授業態度、課題レポート等による総合評価を行う。</p>		
テキスト	<p>『臨床生化学』メディカ出版</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	病態論 講義・30時間・1単位	教員名	兵藤 文則・西谷 耕二
概要 及び 目的	健康障害時の対象の病態を理解するために、炎症、腫瘍、代謝異常、自己免疫、退行性変化、奇形、外傷などについての基本病理を学習し、病因と病変の特徴を理解する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学の概念 2. 病因論 3. 退行性変化 4. 盾環の障害 5. 免疫 6. 炎症 7. 感染症 8. 腫瘍 9. 先天異常 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 2. 筆記試験 		
テキスト	系統看護学講座『専門基礎分野4、疾病のなりたちと回復の促進1、病理学』医学書院		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	疾病と治療 I (呼吸循環機能障害) 講義・30時間・1単位	教員名	吉田 清
概要 及び 目的	<p>人体の解剖生理などの基礎知識をもとにして、疾病の種別、その原因を知り、それぞれの症状の特徴を把握し、臨床の基礎を習得する。内科的治療を受ける患者の各系統の疾患別に必要な諸検査の方法と診断の根拠を知り、治療法の内容を学び、臨床での実践を効果的なものとする。</p>		
授業内容	<p>呼吸・循環機能を障害されている人の理解</p> <p>I - 1 呼吸器疾患の理解</p> <p>I - 2 症状・徴候とその病態生理</p> <p>I - 3 検査と治療・処置</p> <p>II - 1 循環器疾患の理解</p> <p>II - 2 症状・徴候とその病態生理</p> <p>II - 3 検査と治療・処置</p>		
評価方法	筆記試験		
テキスト	<p>系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学(2)呼吸器』医学書院</p> <p>系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学(3)循環器』医学書院</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科																																
科目名	疾病と治療Ⅱ(栄養代謝機能障害) 講義・30時間・1単位	教員名																																	
概要及び目的	<p>人体の解剖生理などの基礎知識をもとにして、疾病の種類、その原因を知り、それぞれの症状の特徴を把握し、臨床の基礎を習得する。内科的治療を受ける患者の各系統の疾患別に必要な諸検査の方法と診断の根拠を知り、治療法の内容を学び、臨床での実践を効果的なものとする。</p>																																		
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コマ数</th> <th>講義内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>腎疾患の理解 【腎・泌尿器テキスト】 ・腎不全 ・ネフローゼ症候群 ・DM 性腎症</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>症状・徴候とその病態生理 ・尿の異常 ・排尿異常 ・浮腫 検査と治療・処置</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>・尿検査 ・腎機能検査 ・画像検査 ・生検 ・腎疾患内科的治療の基本 ・排尿管理 ・透析療法 ・腎移植</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>糖代謝疾患の理解 【内分泌・代謝テキスト】 ・糖尿病 ・脂質異常症 ・尿酸代謝異常</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>・肥満症とメタボリックシンドローム</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>上記疾患に関する症状・徴候とその病態生理、 検査と治療・処置</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>泌尿器疾患の理解 ・膀胱がん ・前立腺がん 上記疾患の理解と症状・徴候とその病態生理、 検査と治療・処置</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>消化器疾患の理解</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>・食道がん ・胃食道逆流症</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>・胃・十二指腸潰瘍 ・胃がん ・潰瘍性大腸炎 ・クローン病 ・腸閉塞 ・大腸がん</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>・肝炎 ・肝硬変 ・肝細胞癌</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>・胆石症 ・胆嚢がん ・膵炎 ・膵臓がん</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>上記疾患に伴う症状・徴候とその病態生理</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>上記疾患に伴う検査と治療・処置</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終講試験</td> </tr> </tbody> </table>			コマ数	講義内容	1	腎疾患の理解 【腎・泌尿器テキスト】 ・腎不全 ・ネフローゼ症候群 ・DM 性腎症	2	症状・徴候とその病態生理 ・尿の異常 ・排尿異常 ・浮腫 検査と治療・処置	3	・尿検査 ・腎機能検査 ・画像検査 ・生検 ・腎疾患内科的治療の基本 ・排尿管理 ・透析療法 ・腎移植	4	糖代謝疾患の理解 【内分泌・代謝テキスト】 ・糖尿病 ・脂質異常症 ・尿酸代謝異常	5	・肥満症とメタボリックシンドローム	6	上記疾患に関する症状・徴候とその病態生理、 検査と治療・処置	7	泌尿器疾患の理解 ・膀胱がん ・前立腺がん 上記疾患の理解と症状・徴候とその病態生理、 検査と治療・処置	8	消化器疾患の理解	9	・食道がん ・胃食道逆流症	10	・胃・十二指腸潰瘍 ・胃がん ・潰瘍性大腸炎 ・クローン病 ・腸閉塞 ・大腸がん	11	・肝炎 ・肝硬変 ・肝細胞癌	12	・胆石症 ・胆嚢がん ・膵炎 ・膵臓がん	13	上記疾患に伴う症状・徴候とその病態生理	14	上記疾患に伴う検査と治療・処置	15	終講試験
	コマ数	講義内容																																	
	1	腎疾患の理解 【腎・泌尿器テキスト】 ・腎不全 ・ネフローゼ症候群 ・DM 性腎症																																	
	2	症状・徴候とその病態生理 ・尿の異常 ・排尿異常 ・浮腫 検査と治療・処置																																	
	3	・尿検査 ・腎機能検査 ・画像検査 ・生検 ・腎疾患内科的治療の基本 ・排尿管理 ・透析療法 ・腎移植																																	
	4	糖代謝疾患の理解 【内分泌・代謝テキスト】 ・糖尿病 ・脂質異常症 ・尿酸代謝異常																																	
	5	・肥満症とメタボリックシンドローム																																	
	6	上記疾患に関する症状・徴候とその病態生理、 検査と治療・処置																																	
	7	泌尿器疾患の理解 ・膀胱がん ・前立腺がん 上記疾患の理解と症状・徴候とその病態生理、 検査と治療・処置																																	
	8	消化器疾患の理解																																	
	9	・食道がん ・胃食道逆流症																																	
	10	・胃・十二指腸潰瘍 ・胃がん ・潰瘍性大腸炎 ・クローン病 ・腸閉塞 ・大腸がん																																	
	11	・肝炎 ・肝硬変 ・肝細胞癌																																	
	12	・胆石症 ・胆嚢がん ・膵炎 ・膵臓がん																																	
	13	上記疾患に伴う症状・徴候とその病態生理																																	
14	上記疾患に伴う検査と治療・処置																																		
15	終講試験																																		
評価方法	<p>1. 筆記試験 2. 出席点を加味する</p>																																		
テキスト	<p>系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学 (5) 消化器』医学書院 系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学 (8) 腎・泌尿器』医学書院 系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学 (6) 内分泌・代謝』医学書院</p>																																		
備考																																			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	疾病と治療Ⅲ (内部環境調節・生体防御機能障害) 講義・30時間・1単位	教員名	片山 雅博
概要 及び 目的	<p>人体の解剖生理などの基礎知識をもとにして、疾病の種別、その原因を知り、それぞれの症状の特徴を把握し、臨床の基礎を習得する。内科的治療を受ける患者の各系統の疾患別に必要な諸検査の方法と診断の根拠を知り、治療法の内容を学び、臨床での実践を効果的なものとする。</p>		
授業内容	<p>内部環境調節を障害されている人の理解 I - 1 内分泌疾患の理解 I - 2 症状・徴候とその病態生理 I - 3 検査と治療・処置</p> <p>生体防御機能を障害されている人の理解 II - 1 アレルギー疾患の理解 II - 2 症状・徴候とその病態生理 II - 3 検査と治療・処置 III - 1 自己免疫疾患の理解 III - 1 症状・徴候とその病態生理 III - 3 検査と治療・処置 IV - 1 感染症疾患の理解 IV - 2 症状・徴候とその病態生理 IV - 3 検査と治療・処置</p> <p>血液造血機能を障害されている人の理解 V - 1 血液・造血疾患の理解 V - 2 症状・徴候とその病態生理 V - 3 検査と治療・処置</p>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 2. 筆記試験 3. 出席点を加味する 		
テキスト	<p>系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学 (6) 内分泌・代謝』医学書院 系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学 (11) アレルギー・膠原病・感染症』医学書院 系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学 (4) 血液・造血器』医学書院</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	疾病と治療Ⅳ(運動・感覚機能障害) 講義・30時間(10-20)・1単位	教員名	村上 昌穂・青木 清
概要及び目的	<p>人体の解剖生理などの基礎知識をもとにして、疾病の種別、その原因を知り、それぞれの症状の特徴を把握し、臨床の基礎を習得する。内科的治療を受ける患者の各系統の疾患別に必要な諸検査の方法と診断の根拠を知り、治療法の内容を学び、臨床での実践を効果的なものとする。運動器における健康障害のある対象者を理解するために、運動器特有の症状と病態生理、診断・検査と治療・処置、また代表的な疾患の理解をする。</p>		
授業内容	<p>I 運動機能を障害されている人の理解(10時間) 青木</p> <p>I-1 疾患の理解</p> <p>1) 外傷性(外因性)の運動器疾患</p> <p>2) 非外傷性(内因性)の運動器疾患</p> <p>I-2 症状とその病態生理</p> <p>I-3 診断・検査と治療・処置</p> <p>II 神経・感覚機能を障害されている人の理解(20時間) 村上</p> <p>II-1 神経・感覚機能疾患の理解</p> <p>II-2 症状・徴候とその病態生理</p> <p>II-3 検査と治療・処置</p>		
評価方法	1. 筆記試験		
テキスト	<p>系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学(7)脳・神経』医学書院</p> <p>系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学(10)運動器』医学書院</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	治療論Ⅰ （臨床栄養学・リハビリテーション論） 講義・30時間（15-15）・1単位	教員名	清水 憲二・（ ） 他
概要及び目的	<p><臨床栄養学> 栄養は生命維持・成長発達に不可欠な要素であるが、病気や障害をもつ人にとってはさらに重要な要素となる。医療従事者に必要な臨床栄養学の基礎知識と、その知識をふまえ実際の対象にどう応用していくかを学ぶ。健康増進、健康障害の治療、食事治療の実際について学習する。</p> <p><リハビリテーション論> リハビリテーションの概念や基本原則、現状等とおし、多様な社会資源を有効に活用援助できる知識や技術を学ぶ。</p>		
授業内容	<p><臨床栄養学>（15時間） 清水</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床栄養学の基礎知識 2. 日常生活と栄養 3. 療養生活と栄養 4. 食事指導の実際 <p><リハビリテーション論>（15時間）（ ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション概論 2. 理学療法について 事例紹介 3. 作業療法について 事例紹介 4. 言語聴覚療法について 事例紹介 5. リハビリテーション分野における臨床心理士の役割について 6. 理学療法トピックス 車いすについて 7. 作業療法トピックス 支援技術と機器の利用について 		
評価方法	<p><臨床栄養学></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 	<p><リハビリテーション論></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 2. 筆記試験 3. 出席点 	
テキスト	臨床栄養学：「臨床栄養学」メディカ出版 リハビリテーション論：資料配布		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	治療論Ⅱ(がんの治療) 講義・15時間・1単位(治療論Ⅱ全体)	教員名	高間 雄大
概要 及び 目的	がんの主な治療法および緩和医療について理解する。		
授業内容	<p>総論</p> <p>癌の疫学・特性・栄養 インフォームドコンセント・EBM 癌の治療に必要な統計学的用語</p> <p>各論</p> <p>癌治療の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術療法 ・化学療法 ・放射線療法 <p>緩和医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアとは ・終末期に大切にしたいことについて(アンケートより) ・WHO方式がん疼痛治療法について 		
評価方法	1. 筆記試験		
テキスト			
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	治療論Ⅱ(周手術期の治療) 講義・15時間・1単位(治療論Ⅱ全体)	教員名	吉田 和弘 他
概要 及び 目的	回復過程の生体反応の知識を基盤として治療や栄養補給に関する原則を理解する。周手術期の治療の概観を理解する。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・手術侵襲と生体反応・麻酔法 全身麻酔：麻酔器・マスク・気管挿管・吸入麻酔・静脈麻酔・バランス麻酔 局所麻酔：脊髄クモ膜下麻酔・硬膜外麻酔 ・手術期器械、設備類手術用機器：電気メス・レーザー手術装置 ・モニター (循環器系モニター呼吸器系モニター筋弛緩モニター) 体温測定(直腸温・口腔、咽頭温・鼓膜温・膀胱温) ・酸素療法・機械的人工換気(人工呼吸器) ・周手術期の輸液管理・栄養管理 ・輸血療法 ・手術前管理：循環器系・呼吸器系・消化器系・血液、凝固系・内分泌系各検査(胸部X線、呼吸機能検査、血液一般、生化学、血糖値、感染症、血液型、心電図) ・術後の疼痛管理 ・術後合併症とその予防 		
評価方法	1. 筆記試験		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と成人の周手術期看護 1 外来／病棟における術前看護 医歯薬出版 ・高齢者と成人の周手術期看護 2 術中／術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版 ・系統看護学講座別巻「臨床外科看護総論」医学書院 		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	臨床心理学 講義・15時間・1単位	教員名	鈴木 晶子
概要 及び 目的	<p>人間は生物的存在であると同時に、心理的・社会的存在でもある。様々な視点から人を理解し、その人に必要な精神的支援ができる看護師を目指す。そのために、BPSモデルについて理解し、多職種との協働の重要性について学ぶ。さらに、ストレスのしくみを理解しストレスが人にどのような影響を及ぼすのかについて学ぶ。そして、精神疾患について理解し様々な心理療法を概観する中で、対人援助のための姿勢や態度、技術を習得する。また、学生自身が自らのメンタルヘルスについて考える機会となるようにしたい。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. BPSモデルによる人間理解、多職種協働 2. ストレスのしくみ、防御機制 3. 発達障害、統合失調症 4. うつ病、双極性障害 5. 不安症、強迫症 他 6. パーソナリティ障害 他 7. 様々な心理療法 8. 試験 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験 2. 出席 		
テキスト	資料配布		
備考			

年次・学期	1年次・通年	担当科	看護学科
科目名	臨床薬理学 講義・45時間・2単位	教員名	荒木 博陽
概要 及び 目的	<p>様々な疾患の治療に薬物療法は欠かすことのできない手法であり、医療従事者は用いられる薬物についてその様々な性質や作用（主作用、副作用、相互作用など）を十分に認識しておく必要がある。なかでも看護業務は患者さんの最も身近で薬物療法を支える大変重要な役割を担う。従って、看護師は与薬等の薬物療法を行う上で医薬品に関する的確な知識を有することが大変重要である。</p> <p>臨床薬理学では薬物に関する基礎的な知識、各疾患において使用される代表的な薬物の種類、効果と副作用、どのように有効性を発揮するのか（作用機序）、体内での薬物の運命（薬物動態）からみた薬物間の相互作用等を学習し、看護業務における医薬品の適正使用に対応できる実践的な知識も身につけておく必要がある。</p>		
授業内容	<p>薬理学総論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理学の概念 2. 薬が作用するしくみ 3. 薬物の運命Ⅰ 4. 薬物の運命Ⅱ 5. 薬物間相互作用 6. 薬害、副作用、妊婦・授乳婦への薬物治療、新薬開発 <p>薬理学各論</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 感染症治療薬Ⅰ 8. 感染症治療薬Ⅱ 9. 抗がん薬 10. 免疫治療薬 11. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 12. 自律神経系作用薬 13. 中枢神経系作用薬Ⅰ 14. 中枢神経系作用薬Ⅱ 15. 循環器系に作用する薬物Ⅰ 16. 循環器系に作用する薬物Ⅱ 17. 循環器系に作用する薬物Ⅲ 18. 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物Ⅰ 19. 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物Ⅱ 20. 物質代謝に作用する薬物（糖尿病治療薬 他） 21. ビタミン、皮膚科・眼科用薬 22. 救急の際に用いられる薬物 23. 漢方薬・消毒薬 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席点 10点 2. 小テスト 20点 3. 筆記試験 70点 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスト 系統看護学講座『専門基礎5 疾病のなりたちと回復の促進（2）薬理学』 2. 参考書籍 ①知らないといけない！病棟でよく使われるくすり 編集 荒木博陽 照林社 ②臨床場面でわかる！薬の知識 監修 五味田 裕、編集 荒木 博陽 南江堂 		
備考	<p>授業中や授業後の質問は大歓迎 私語は厳禁！</p>		

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	微生物学と感染症 講義・30時間・1単位	教員名	篠田 純男・野田 泰子
概要 及び 目的	近年、新しく発見された微生物による感染症や、結核に代表されるような、忘れがちになっていた感染症の再発が社会的に問題になっている。起炎菌や社会環境の変化、患者の人権の問題も含めて、感染症を引き起こす微生物の基礎知識を学ぶとともに、患者の安全や感染予防の重要性に照らし、予防と対策について正しい知識と態度を学ぶ。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の歴史、分類、形態（構造） 2. 微生物の増殖と遺伝 3. 感染と発症（免疫） 4. 細菌学各論 5. 真菌学 6. ウイルス学総論と各論 7. 微生物感染対策 8. まとめ（食中毒、STD など） 		
評価方法	1. 筆記試験		
テキスト	小熊 恵二『コンパクト微生物学』南江堂		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	医療と法 講義・15時間・1単位	教員名	藤田 有香・監物 英男 寺岡 仁子
概要 及び 目的	看護職員が業務を遂行する上において、基本的な知識と法律の概要、各種の関係法規、看護・看護活動に関連した関係法規を学習することで、与えられた職責を正しく遂行できることをねらいとする。		
授業内容	I. 法の概念（寺岡） <ol style="list-style-type: none"> 1. 法の概念 2. 法の分類 3. 衛生法 4. 厚生行政のしくみ II. 医事法（藤田） <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師法・医療法 <ul style="list-style-type: none"> ・医師法 ・医療法 2. 医療関係資格法 3. 保健福祉関係資格法等 III. 薬務法（監物） <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品 <ul style="list-style-type: none"> ・薬事法等 2. 毒物等 <ul style="list-style-type: none"> ・毒物及び劇物取締法 ・麻薬及び向精神薬取締法等 IV 労働法と社会基盤整備（寺岡） <ol style="list-style-type: none"> 1. 労働法 <ul style="list-style-type: none"> ・労働基準法 ・労働安全衛生法等 2. 社会基盤整備等 <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画社会基本法 ・次世代育成支援対策推進法等 V 環境法（藤田） <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全の基本法等 		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 10 看護関係法令 医学書院		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	健康支援の保健活動 講義・15時間・1単位	教員名	梶尾 厚子
概要及び目的	<p>社会保障の一環として、国民全体を対象とした人々の健康はどのように守られているのか、公衆衛生的な視点で基本的な知識を学習する。特に社会の動向に関連して人々の健康課題に地域保健活動（公衆衛生活動）がどのように進められているか、行政の役割や他機関、他職種との連携や協働活動を学び、人々の健康を支援する活動を学習する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の意義 2. 健康に関する指標 3. 疫学方法による健康の理解 4. 感染症とその予防 5. 公衆衛生の視点で進める保健活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 産業保健 2) 地域保健 3) 環境保健 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 出席点、受講態度も加味する 		
テキスト	<p>わかりやすい公衆衛生学 第4版 ヌーベルヒロカワ 国民衛生の動向：厚生統計協会</p>		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	社会福祉論 講義・15時間・1単位	教員名	高才 彰
概要 及び 目的	<p>看護と社会福祉・社会保障の共通する対人援助概念として「ウェルビーイング」がある。昨今の看護現場の拡大は対象者とその生活をアセスメントし、社会福祉・社会保障の知識を活用し「ウェルビーイング」の実現を図ることが求められている。</p> <p>授業では看護において必要な社会福祉・社会保障の制度や法体系、サービス内容等の基本的な知識を習得し、さらに対象者の「ウェルビーイング」をケアマネジメントする基礎的な応用力を身に付けることを目標とする。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 2. 医療保障（健康保険と国民健康保険） 3. 〃 （老人保健制度・保険診療の仕組み） 4. 介護保障（介護保険制度の概要） 5. 〃 （介護サービスの概要） 6. 所得保障と公的扶助 7. 社会福祉の分野とサービス、看護との連携 8. 試験 		
評価方法	1. 筆記試験の点数		
テキスト	「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔3〕 社会保障・社会福祉」 （第2021年改訂版）医学書院 ISBN978-4-260-04086-0		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	障がい者福祉論 講義・15時間・1単位	教員名	赤木 剛
概要及び目的	障がい者は日々の生活を送る上で様々な困難を伴うことが多いが、それらを和らげ、障がい者の暮らしを支えるために、多くの法律や制度が定められている。そのため、障がい者のもつ様々なニーズについて考え、看護師として障がい者を支えていく上で必要となる法律や制度について学ぶ。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障がい者の定義と実態 2. 障がい者福祉の理念 3. 障がい者福祉制度の変遷 4. 障がい者自立支援制度と障害者総合支援法（1） 5. 障がい者自立支援制度と障害者総合支援法（2） 6. 障がい者福祉の関連施策 7. 障がい者の生活を支える所得保障制度 8. 試験 		
評価方法	1. 試験		
テキスト	「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔3〕社会保障・社会福祉」 医学書院 必要に応じて資料を配布		
備考			

年次・学期	2年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	医療安全 講義・30時間・2単位	教員名	岩本 美代子・松田 真哉
概要 及び 目的	医療・看護が安全に提供されるためには、日常における組織的な事故防止活動と医療事故発生時の対応が最も重要である。看護師の業務における様々な事故の構造と、根拠の基づく具体的な知識により事故を回避し、安全で質の高い看護実践活動を学ぶ。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の歴史 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1999年(平成11)に起きた患者取り違え事件の紹介 【日本が医療安全を考え取り組むようになったきっかけ】 *横浜市立大学附属病院・都立広尾病院の2件を知る 2) 事故から医療の安全について考える。 2. 用語の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 用語の定義 「インシデント」「ヒヤリハット」「アクシデント」「医療事故」「リスクマネジメント」 「医療過誤」 2) インシデント、アクシデント分類表(例) 医療安全を学ぶことの大切さ 1) 人はなぜ過ちを犯すのか・・・ヒューマンエラーについて 3. 医療安全を学ぶことの大切さ <ol style="list-style-type: none"> 3) 情報伝達のエラー 4) 事故防止対策 4～5. 医療安全に対する最近の動向・考え方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全推進の3つの方向性 2) ミスを防ぐための対策 ・各レベルでのミスを防ぐための対策 (個人、組織、事故分析、安全文化の醸成) 6～8. 危険予知トレーニング イラスト場面から危険を発見し、対策を考える。(グループワーク) 9～10. 院内感染を防止する視点からの医療安全 <感染管理認定看護師講義> <ol style="list-style-type: none"> 1) スタンダードプリコーションと感染予防対策 2) 感染管理看護師の役割 11～12. 輸液ポンプ・シリンジポンプの目的と使用における危険を知る 輸液ポンプ・・・目的・注意点・操作方法の基本を実践 シリンジポンプ・・・目的・注意点・操作方法の基本薬物の換算計算実践含む 13. 医療事故後の対応 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療事故とは 2) 心構え 3) 医療事故発生時の初期対応の考え方、方法 看護学実習における医療安全 1) 看護学生の実習中における事故の法的責任 2) 無資格である看護学生が行う看護技術の考え方インシデント報告 1) インシデント報告の必要性和記入方法 14. B型肝炎患者講義 B型肝炎患者講義聴講から医療安全と看護の役割を考える 15. 終講試験 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート・提出物 2. 出席点・受講態度を加味する 3. 筆記試験 		
テキスト	医療安全～患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力～ Gakken		
備考			

年次・学期	1年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	看護学概論 講義・30時間・1単位	教員名	双田 清美・定金 直美
概要及び目的	<p>看護の対象となる人は、年齢や育った環境、価値観や人生観など一人ひとり異なる。その対象者に応じた看護を提供するためには、様々な知識、判断力、看護実践力が必要となる。</p> <p>看護学概論は、入学してはじめて看護について考える科目である。この科目では、看護師として問いつけるであろう「看護とは何か、また、看護師とはどのような職業なのか」を探求し、看護師を志す者としての基本的な姿勢や看護の考え方を学ぶ。</p>		
授業内容	(担当：双田)		
	回数	内 容	備 考
	1	学院内の自然を体験し五感を意識して観察し、看護にとっての観察の重要性を理解する	校内散策
	2	・パフォーマンス課題提示 ・「人間」「健康」「環境」「看護」の概念について、課題解決に向けた手がかりをつかむために、グループで話し合いをおこなう。	グループ学習
	3	ナイチンゲール、ヘンダーソンの看護の考え方を理解し、「看護」とは何かの課題を解決するための視野を広げる。	講義
	4 5	「人間」「健康」「環境」の概念について理解する	講義
	6	課題解決に向けて学習し、資料の作成とまとめを行う。	自己学習
	7	パフォーマンス課題で作成した資料を相互に評価し、看護の視点を広げる	評価
	8	中間試験	
	(担当：定金)		
<p>9. 専門看護師、認定看護師制度の設立や内容が理解できる。</p> <p>10. 専門職としての看護教育制度がどのように生まれたのか理解できる。</p> <p>11. 保健師助産師看護師法から、看護師の定義や業務の範囲について理解する。</p> <p>12. 診療の補助行為としての特定行為を実施できる制度の内容を理解する。</p> <p>13. 介護福祉士や他の医療関係職の業務内容を理解する。</p> <p>14. パフォーマンス課題に取り組み、自分の考えを明確にできる。</p> <p>15. パフォーマンス評価を通して、専門職である看護師の視点を明確にできる。</p> <p>16. 終講試験</p>			
評価方法	筆記試験（中間・終講）、レポート、出席状況で総合的に判断する		
テキスト	<p>系統看護学講座『専門分野I 看護学概論』医学書院 ナイチンゲール『看護覚え書』現代社 『ナイチンゲールの看護の覚え書』西東社 ヘンダーソン『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会</p> <p>参考文献：講義の中で適宜紹介する。必要時、資料提供する。</p>		
備 考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	看護研究理論 講義・30時間・1単位	教員名	大森 和子
概要 及び 目的	看護を科学的に考え実践する能力を身につけるために、看護における研究の意義と必要性、および研究の基礎的知識について学習する。さらに、看護研究に取り組み、看護の場に生じている現象を、科学的に分析し、自己洞察することにより、看護のあり方を考える。また、看護について探求する態度・自己研鑽していく姿勢を養う。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究とは 2. 研究における倫理的配慮 3. 研究と理論 4. 研究計画書の意義 5. 文献検索の方法 6. 看護研究の種類（事例研究・調査研究・文献研究など） 7. 看護研究の方法と進め方 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート （文献の読解プリント） 2. レポートの提出期限、内容・出席、受講態度で評価する。 3. ミニテスト（授業内容ポイントについて） 		
テキスト	「ひとりで学べる看護研究」照林社 必要時資料配布		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科															
科目名	看護研究の実際 講義・15時間・1単位	教員名	看護学科教員															
概要 及び 目的	看護研究に取り組み、看護の場に生じている現象を、科学的に分析し、自己洞察することにより、看護のあり方を考える。さらに看護について探求する態度・自己研鑽していく姿勢を養う。																	
授業内容	<p>目的：実習で体験した事例について、科学的に分析することで対象者にとって最善の看護を明確にする。</p> <p>方法：看護の基本となる実習Ⅱにおいて受け持ち、関わった対象者への看護をA3用紙1枚（もしくはA4用紙2枚で作成し、A3としてコピーして提出）にパソコンでまとめる。図表やコピーや切り貼りは可。</p> <p>*余白 上下左右2.0cm フォント・字体は自由</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="text-align: center;">進め方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>導入後、担当教員にあいさつと指導を受ける日時を可能ならする。その後、原稿を進める。</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td rowspan="2">2コマ以降は授業時間内に個人指導を受けるが、担当教員の都合が悪い場合は積極的に時間の予約を取って指導を受ける。</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>担当教員に確認し、まとめる方向性を提出等する。（書式目由）</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td rowspan="2">毎回担当教員と面談し、指導を受ける。</td> </tr> <tr> <td>6回目</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> <td rowspan="2">まとめ</td> </tr> <tr> <td>8回目</td> </tr> </tbody> </table>				進め方	1回目	導入後、担当教員にあいさつと指導を受ける日時を可能ならする。その後、原稿を進める。	2回目	2コマ以降は授業時間内に個人指導を受けるが、担当教員の都合が悪い場合は積極的に時間の予約を取って指導を受ける。	3回目	4回目	担当教員に確認し、まとめる方向性を提出等する。（書式目由）	5回目	毎回担当教員と面談し、指導を受ける。	6回目	7回目	まとめ	8回目
	進め方																	
1回目	導入後、担当教員にあいさつと指導を受ける日時を可能ならする。その後、原稿を進める。																	
2回目	2コマ以降は授業時間内に個人指導を受けるが、担当教員の都合が悪い場合は積極的に時間の予約を取って指導を受ける。																	
3回目																		
4回目	担当教員に確認し、まとめる方向性を提出等する。（書式目由）																	
5回目	毎回担当教員と面談し、指導を受ける。																	
6回目																		
7回目	まとめ																	
8回目																		
評価方法	看護研究を総合してまとめ、担当教員が評価する。																	
テキスト	「ひとりで学べる看護研究」 照林社																	
備考																		

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	看護の基本となる技術 講義・30時間・1単位	教員名	岩本 美代子・定金 直美
概要 及び 目的	<p>看護を学ぶにあたって、看護技術の考え方を理解する。 また、感染予防、報告・連絡・相談、リフレクションなど看護実践の基本となる技術を身につける。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ・看護とは <ul style="list-style-type: none"> ・看護技術を学ぶにあたって ・看護技術の基本原則 2. 安全を守る技術 感染を防止する技術① 標準予防策・手洗い・演習 3. 安全・安楽な看護とは 4. 安全・安楽な看護とは 5. 安全・安楽な看護とは 6. 安全を守る技術 感染を防止する技術② 個人の防護策、感染経路別予防対策、バイオハザードマーク 7. 安全を守る技術 感染を防止する技術③ 四種抗体検査・B型肝炎ワクチン接種の目的 抗体価の結果の判断とワクチン接種計画 8. 安全を守る技術 9. チームで協働する看護師のコミュニケーションの基本① 10. チームで協働する看護師のコミュニケーションの基本② 11. チームで協働する看護師の報告・連絡・相談の必要性① 12. チームで協働する看護師の報告・連絡・相談の必要性② 13. 根拠を裏付けるための文献活用方法① 著作権の利用のルール 14. 根拠を裏付けるための文献活用方法② 著作権の利用のルール 15. 終講試験は筆記試験 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 必要に応じレポート 		
テキスト	<p>系統看護学講座 専門2『基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ』医学書院 系統看護学講座 専門2『基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ』医学書院</p>		
備考			

年次・学期	1年次・前～後期	担当科	看護学科								
科目名	生活行動を支える技術Ⅰ (生活環境と活動) 講義・30時間・1単位	教員名	看護学科教員								
概要 及び 目的	健康的な日常生活を促進する援助技術（生活環境・活動・休息）を学び、対象の理解と安全安楽な看護実践の基礎となる、知識・技術・態度・倫理的判断の基礎を身につける。										
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 活動運動の援助技術 2. 休息睡眠の援助 演習：ボディメカニクス、体位変換、ポジショニング、車椅子・ストレッチャー移乗・移送</td> <td>7コマ (14H)</td> </tr> <tr> <td>1. 環境を整える援助技術 演習：ベッドメイキング、リネン交換、環境整備</td> <td>7コマ (14H)</td> </tr> <tr> <td>テスト</td> <td>1コマ (2H)</td> </tr> </tbody> </table>			内 容	時間数	1. 活動運動の援助技術 2. 休息睡眠の援助 演習：ボディメカニクス、体位変換、ポジショニング、車椅子・ストレッチャー移乗・移送	7コマ (14H)	1. 環境を整える援助技術 演習：ベッドメイキング、リネン交換、環境整備	7コマ (14H)	テスト	1コマ (2H)
内 容	時間数										
1. 活動運動の援助技術 2. 休息睡眠の援助 演習：ボディメカニクス、体位変換、ポジショニング、車椅子・ストレッチャー移乗・移送	7コマ (14H)										
1. 環境を整える援助技術 演習：ベッドメイキング、リネン交換、環境整備	7コマ (14H)										
テスト	1コマ (2H)										
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 筆記試験 校内演習態度 事前学習への取り組み、提出状況 										
テキスト	系統看護学講座 専門2『基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ』 医学書院										
備考											

年次・学期	1年次・前～後期	担当科	看護学科										
科目名	生活行動を支える技術Ⅱ (セルフケア) 講義・45時間・1単位	教員名	看護学科教員										
概要 及び 目的	健康的な日常生活を促進する援助技術（食事、排泄、清潔・衣生活）を学び、対象の理解と安全安楽な看護実践の基礎となる、知識・技術・態度・倫理的判断の基礎を身につける。												
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 食べることへの援助技術 演習：食事援助技術</td> <td>6コマ（12H）</td> </tr> <tr> <td>2. 排泄への援助技術 演習：排泄援助技術（尿器、便器、おむつ交換）</td> <td>6コマ（12H）</td> </tr> <tr> <td>3. 清潔への援助技術（衣生活を含む） 演習：清潔援助技術（清拭、陰部洗浄、洗髪、足浴、手浴、更衣）</td> <td>10コマ（20H）</td> </tr> <tr> <td>テスト</td> <td>1コマ（2H）</td> </tr> </tbody> </table>			内 容	時間数	1. 食べることへの援助技術 演習：食事援助技術	6コマ（12H）	2. 排泄への援助技術 演習：排泄援助技術（尿器、便器、おむつ交換）	6コマ（12H）	3. 清潔への援助技術（衣生活を含む） 演習：清潔援助技術（清拭、陰部洗浄、洗髪、足浴、手浴、更衣）	10コマ（20H）	テスト	1コマ（2H）
内 容	時間数												
1. 食べることへの援助技術 演習：食事援助技術	6コマ（12H）												
2. 排泄への援助技術 演習：排泄援助技術（尿器、便器、おむつ交換）	6コマ（12H）												
3. 清潔への援助技術（衣生活を含む） 演習：清潔援助技術（清拭、陰部洗浄、洗髪、足浴、手浴、更衣）	10コマ（20H）												
テスト	1コマ（2H）												
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 筆記試験 校内演習態度 事前学習への取り組み、提出状況 												
テキスト	系統看護学講座 専門2『基礎看護学3基礎看護技術Ⅱ』医学書院												
備考													

年次・学期	1年次・前期・後期	担当科	看護学科
科目名	基礎看護技術演習 演習・30時間・1単位	教員名	看護学科教員
概要 及び 目的	対象を理解し、複数の看護技術を用いて対象の状態に応じた方法を選択し、倫理的判断に基づいた実践ができるための基礎的能力を養う。さらに対象との関わり方を考えるとともに安全・安楽・自立の視点をもって実践できる。		
授業内容	日常生活行動を支える技術試験 Part 1（環境を整える技術） 日常生活行動を支える技術試験 Part 2（日常生活援助技術）		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 技術試験 3. レポート 4. 校内実習態度 		
テキスト			
備考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	看護学科																																																			
科目名	対象を把握するための技術 講義・30 時間・1 単位	教員名	看護学科教員																																																			
概要 及び 目的	目的：正確なフィジカルアセスメントの技術を身につけ、健康状態を把握するための観察とヘルスアセスメントの必要性を理解する。																																																					
授業内容	【前半】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学習内容</th> <th>事前課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>体温・脈拍・呼吸測定</td> <td>・体温、脈拍が測定できるすべての部位 ・体温、脈拍、呼吸の正常値 ・熟型パターン ・異常呼吸の種類</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>血圧測定</td> <td>・血圧とは何か ・収縮期血圧と拡張期血圧とは何か ・コロトコフ音とは何か ・コロトコフ音の変化</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>血圧測定</td> <td>・血圧の正常値 ・血圧測定できる部位（全て） ・高血圧、低血圧時にみられる症状 *フィジカルアセスメントについて書いてある参考文献を参照</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>呼吸音の聴診</td> <td>・呼吸の聴診 （チェストとピースをあてる部位と聴診の順番） ・呼吸の種類と複雑音 ・呼吸器系の自覚症状・他覚症状・徴候</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>呼吸音の聴診 経皮的動脈酸素飽和度の測定</td> <td>・経皮的動脈血酸素飽和度 ・動脈血ガス分析 ・経皮的動脈血酸素飽和度と動脈血ガス分析の正常値</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>腹部の聴診</td> <td>・腹部の体表区分 ・腸蠕動音の正常と腸蠕動異常音の種類 ・腹部の自覚症状</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>心音聴診・意識の観察</td> <td>・脳神経とその機能 ・瞳孔反射と瞳孔の大きさの正常値 ・心臓の位置と心音聴取の部位 ・I 音、II 音、III 音、IV 音とは ・術環器系の症状・徴候</td> </tr> </tbody> </table> <p><授業準備・事前学習について> *事前学習の内容だけでなくテキストの動画を見るなど、教科書に目を通し、イメージして実践できる準備をしてきましょう。 *事前学習は、評価に反映されます。(期限遅れ、内容不備) 教科書を中心に、参考文献も利用しながら学習するのが望ましい。</p> 【後半】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学習内容</th> <th>事前課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8</td> <td>講義（体温・脈拍・血圧・呼吸・経皮的酸素飽和度・心音・腹部の観察意識レベル）</td> <td>*事例（桜さん：心不全） 次回、必要な観察項目を各自で考えてくる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>事例で GW</td> <td>事例：観察項目の必要性の根拠</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>事例で GW（演習） 観察の実践</td> <td>観察方法（順番と手順・声掛けも含む）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>事例で GW（演習） 観察の実践</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>プレゼンテーション 発表 20 分・質疑応答</td> <td>必要な観察項目の追加・修正（根拠）</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>事例患者の観察の実践（G で評価） 必要な観察とその方法を G で検討</td> <td>試験：G で評価・討議 *個人でリフレクション</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>講義（フィジカルアセスメントとは）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終講試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学習内容	事前課題	1	体温・脈拍・呼吸測定	・体温、脈拍が測定できるすべての部位 ・体温、脈拍、呼吸の正常値 ・熟型パターン ・異常呼吸の種類	2	血圧測定	・血圧とは何か ・収縮期血圧と拡張期血圧とは何か ・コロトコフ音とは何か ・コロトコフ音の変化	3	血圧測定	・血圧の正常値 ・血圧測定できる部位（全て） ・高血圧、低血圧時にみられる症状 *フィジカルアセスメントについて書いてある参考文献を参照	4	呼吸音の聴診	・呼吸の聴診 （チェストとピースをあてる部位と聴診の順番） ・呼吸の種類と複雑音 ・呼吸器系の自覚症状・他覚症状・徴候	5	呼吸音の聴診 経皮的動脈酸素飽和度の測定	・経皮的動脈血酸素飽和度 ・動脈血ガス分析 ・経皮的動脈血酸素飽和度と動脈血ガス分析の正常値	6	腹部の聴診	・腹部の体表区分 ・腸蠕動音の正常と腸蠕動異常音の種類 ・腹部の自覚症状	7	心音聴診・意識の観察	・脳神経とその機能 ・瞳孔反射と瞳孔の大きさの正常値 ・心臓の位置と心音聴取の部位 ・I 音、II 音、III 音、IV 音とは ・術環器系の症状・徴候	回数	学習内容	事前課題	8	講義（体温・脈拍・血圧・呼吸・経皮的酸素飽和度・心音・腹部の観察意識レベル）	*事例（桜さん：心不全） 次回、必要な観察項目を各自で考えてくる	9	事例で GW	事例：観察項目の必要性の根拠	10	事例で GW（演習） 観察の実践	観察方法（順番と手順・声掛けも含む）	11	事例で GW（演習） 観察の実践		12	プレゼンテーション 発表 20 分・質疑応答	必要な観察項目の追加・修正（根拠）	13	事例患者の観察の実践（G で評価） 必要な観察とその方法を G で検討	試験：G で評価・討議 *個人でリフレクション	14	講義（フィジカルアセスメントとは）		15	終講試験	
	回数	学習内容	事前課題																																																			
	1	体温・脈拍・呼吸測定	・体温、脈拍が測定できるすべての部位 ・体温、脈拍、呼吸の正常値 ・熟型パターン ・異常呼吸の種類																																																			
	2	血圧測定	・血圧とは何か ・収縮期血圧と拡張期血圧とは何か ・コロトコフ音とは何か ・コロトコフ音の変化																																																			
	3	血圧測定	・血圧の正常値 ・血圧測定できる部位（全て） ・高血圧、低血圧時にみられる症状 *フィジカルアセスメントについて書いてある参考文献を参照																																																			
	4	呼吸音の聴診	・呼吸の聴診 （チェストとピースをあてる部位と聴診の順番） ・呼吸の種類と複雑音 ・呼吸器系の自覚症状・他覚症状・徴候																																																			
	5	呼吸音の聴診 経皮的動脈酸素飽和度の測定	・経皮的動脈血酸素飽和度 ・動脈血ガス分析 ・経皮的動脈血酸素飽和度と動脈血ガス分析の正常値																																																			
	6	腹部の聴診	・腹部の体表区分 ・腸蠕動音の正常と腸蠕動異常音の種類 ・腹部の自覚症状																																																			
	7	心音聴診・意識の観察	・脳神経とその機能 ・瞳孔反射と瞳孔の大きさの正常値 ・心臓の位置と心音聴取の部位 ・I 音、II 音、III 音、IV 音とは ・術環器系の症状・徴候																																																			
	回数	学習内容	事前課題																																																			
8	講義（体温・脈拍・血圧・呼吸・経皮的酸素飽和度・心音・腹部の観察意識レベル）	*事例（桜さん：心不全） 次回、必要な観察項目を各自で考えてくる																																																				
9	事例で GW	事例：観察項目の必要性の根拠																																																				
10	事例で GW（演習） 観察の実践	観察方法（順番と手順・声掛けも含む）																																																				
11	事例で GW（演習） 観察の実践																																																					
12	プレゼンテーション 発表 20 分・質疑応答	必要な観察項目の追加・修正（根拠）																																																				
13	事例患者の観察の実践（G で評価） 必要な観察とその方法を G で検討	試験：G で評価・討議 *個人でリフレクション																																																				
14	講義（フィジカルアセスメントとは）																																																					
15	終講試験																																																					
評価方法	1. 筆記試験 2. レポート 3. 校内実習態度																																																					
テキスト	系統看護学講座 専門 2『基礎看護学 2 基礎看護技術 I』 医学書院																																																					
備考	参考図書：フィジカルアセスメントがみえる MEDIC MEDIA																																																					

年次・学期	1年次・通年	担当科	看護学科																																		
科目名	看護を展開するための技術 講義・30時間・1単位	教員名	看護学科教員																																		
概要及び目的	看護を科学的に思考するためのプロセスを身に付ける。																																				
授業内容	<p>前期：5コマ 後期：9コマ 終講試験：1コマ</p> <p>【前期内容】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護過程とは</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護を展開するための基盤となる考え方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>クリティカルシンキング</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>リフレクション</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【後期内容】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>・看護過程とは</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>看護過程の構成要素</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>(アセスメント、看護問題の抽出、計画立案、評価、関連図)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>*紙上事例を用いて看護過程を展開していつ（個人ワーク・グループワーク）</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>・看護記録について</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終講試験</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内 容	1	看護過程とは	2	看護を展開するための基盤となる考え方	3	クリティカルシンキング	4	リフレクション	5		回数	内 容	6	・看護過程とは	7	看護過程の構成要素	8	(アセスメント、看護問題の抽出、計画立案、評価、関連図)	9	*紙上事例を用いて看護過程を展開していつ（個人ワーク・グループワーク）	10	・看護記録について	11		12		13		14		15	終講試験
回数	内 容																																				
1	看護過程とは																																				
2	看護を展開するための基盤となる考え方																																				
3	クリティカルシンキング																																				
4	リフレクション																																				
5																																					
回数	内 容																																				
6	・看護過程とは																																				
7	看護過程の構成要素																																				
8	(アセスメント、看護問題の抽出、計画立案、評価、関連図)																																				
9	*紙上事例を用いて看護過程を展開していつ（個人ワーク・グループワーク）																																				
10	・看護記録について																																				
11																																					
12																																					
13																																					
14																																					
15	終講試験																																				
評価方法	<p>1. 筆記試験</p> <p>2. 実習態度</p> <p>3. レポート</p>																																				
テキスト	系統看護学講座 専門2『基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ』 医学書院																																				
備考																																					

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科														
科目名	健康の回復を支える技術Ⅰ (症状・経過に伴う技術) 講義・30時間・1単位	教員名	看護学科教員														
概要 及び 目的	主要な症状を示す対象者に必要な看護を実践するための基礎的知識・技術を学ぶ。																
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 症状・経過に伴う援助技術</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 1) 排泄困難がある対象者への援助技術 演習：導尿、浣腸</td> <td>6コマ (12H)</td> </tr> <tr> <td> 2) 呼吸困難のある対象者への援助技術 演習：酸素療法 (中央配管方式、酸素ボンベ) 吸引 (口腔、鼻腔、気管)</td> <td>6コマ (12H)</td> </tr> <tr> <td> 3) 経口摂取困難のある対象者への援助技術</td> <td>2コマ (4H)</td> </tr> <tr> <td> 4) 体温調節が必要な対象者への援助</td> <td>1コマ (2H)</td> </tr> <tr> <td>テスト (筆記試験)</td> <td>1コマ (2H)</td> </tr> </tbody> </table>			内 容	時間数	1. 症状・経過に伴う援助技術		1) 排泄困難がある対象者への援助技術 演習：導尿、浣腸	6コマ (12H)	2) 呼吸困難のある対象者への援助技術 演習：酸素療法 (中央配管方式、酸素ボンベ) 吸引 (口腔、鼻腔、気管)	6コマ (12H)	3) 経口摂取困難のある対象者への援助技術	2コマ (4H)	4) 体温調節が必要な対象者への援助	1コマ (2H)	テスト (筆記試験)	1コマ (2H)
内 容	時間数																
1. 症状・経過に伴う援助技術																	
1) 排泄困難がある対象者への援助技術 演習：導尿、浣腸	6コマ (12H)																
2) 呼吸困難のある対象者への援助技術 演習：酸素療法 (中央配管方式、酸素ボンベ) 吸引 (口腔、鼻腔、気管)	6コマ (12H)																
3) 経口摂取困難のある対象者への援助技術	2コマ (4H)																
4) 体温調節が必要な対象者への援助	1コマ (2H)																
テスト (筆記試験)	1コマ (2H)																
評価方法	1. 筆記試験 2. 校内実習態度 3. レポート																
テキスト	系統看護学講座 専門2 『基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ』医学書院 系統看護学講座 別巻17 『臨床看護総論』医学書院																
備考																	

年次・学期	2 年次・前期	担当科	看護学科												
科目名	健康の回復を支える技術Ⅱ (診断・治療・処置に伴う技術) 講義・30 時間・1 単位	教員名	看護学科教員												
概要 及び 目的	健康状態の経過に基づいた看護の考え方を理解し、治療・処置をうける対象者への看護を 実践するための基礎的知識・技術を学ぶ。														
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 治療・処置に伴う援助技術</td> <td>6 コマ (12H)</td> </tr> <tr> <td>1) 検査 (検体検査・生体検査) を受ける対象の援助技術</td> <td>6 コマ (12H)</td> </tr> <tr> <td>2) 与薬が必要な対象への援助技術 演習：皮下注射、筋肉注射、静脈内注射、点滴静脈内注射</td> <td>2 コマ (4 H)</td> </tr> <tr> <td>3) 創傷管理を必要とする対象への援助技術 演習：無菌操作、創傷処置</td> <td></td> </tr> <tr> <td>テスト (筆記試験)</td> <td>1 コマ (2 H)</td> </tr> </tbody> </table>			内 容	時間数	1. 治療・処置に伴う援助技術	6 コマ (12H)	1) 検査 (検体検査・生体検査) を受ける対象の援助技術	6 コマ (12H)	2) 与薬が必要な対象への援助技術 演習：皮下注射、筋肉注射、静脈内注射、点滴静脈内注射	2 コマ (4 H)	3) 創傷管理を必要とする対象への援助技術 演習：無菌操作、創傷処置		テスト (筆記試験)	1 コマ (2 H)
内 容	時間数														
1. 治療・処置に伴う援助技術	6 コマ (12H)														
1) 検査 (検体検査・生体検査) を受ける対象の援助技術	6 コマ (12H)														
2) 与薬が必要な対象への援助技術 演習：皮下注射、筋肉注射、静脈内注射、点滴静脈内注射	2 コマ (4 H)														
3) 創傷管理を必要とする対象への援助技術 演習：無菌操作、創傷処置															
テスト (筆記試験)	1 コマ (2 H)														
評価方法	1. 筆記試験 2. 校内実習態度 3. レポート														
テキスト	系統看護学講座 専門 2 『基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ』 医学書院 系統看護学講座 別巻 17 『臨床看護総論』 医学書院														
備考															

年次・学期	1 年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	看護の基本となる実習 I 実習・45 時間・1 単位	教員名	山下 純子
概要 及び 目的	<p>看護師の対象を理解し、健康を支える環境とは何か、また看護とは何かについて理解する。また、看護実践をとおして、看護の役割と責務を理解する中で日常生活援助の重要性を学ぶ。</p>		
授業内容	<p style="text-align: center;">看護の基本となる実習 I - (1) (看護を知る)</p> <p>【目標】 看護師とともにおこなう看護実践をとおして、対象者の生命を守り、健康と生活を支えるために看護師がおこなう環境を整える意義について学ぶ。</p> <p>1. 実習のねらい 対象者の生命を守り、健康と生活を支え、対象者を取り巻く環境を最良の状態に整えることは看護師の役割である。また、そのためには五感をつかって観察し、観察した結果を看護に活かす力が必要となる。 看護の基本となる実習 I - (1) では、看護師と共に看護に参加し、対象者の生命を守り、健康と生活を支えるために看護師がどのように対象者の安全・安楽・個別性を配慮して環境を整えているかを知る。これらをとおして、看護師がおこなう環境を整える意義の理解を目指す。さらに、体験したことをリフレクションし探究的に学習することを目指す。</p> <p style="text-align: center;">看護の基本となる実習 I - (2) (日常生活援助方法を知る)</p> <p>【目標】 看護師とともにできる範囲の看護実践をとおして、対象者の健康状態を整えるために看護師がどのように安全・安楽・自立を考えながら日常生活援助を実践しているか知り、看護師がおこなう日常生活援助の意義を理解する。 * 健康状態を整えるとは、対象が本来もつ自然治癒力を発揮しやすい環境を整え、健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を目指すことである。</p> <p>1. 実習のねらい 看護の基本となる実習 I - (2) では、対象者の健康状態や入院前の生活習慣を考慮した日常生活援助の実践をとおして、看護師がおこなう日常生活援助の意義の理解を目指す。さらに、体験したことをリフレクションし探究的に学習することを目指す。</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 60 点以上を合格とし、不合格者は 1 回のみ再実習が可能である。 1) 一次評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価基準をもとに、実習指導者、教員でおこなう。 2) 最終評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習指導者の意見も含め、評価基準表をもとに学生と教員が評価する。 ・ 合格の可否は審議し、決定する。 		
テキスト	看護の基本となる実習 I - (1)、I - (2) の要領		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	看護の基本となる実習Ⅱ 実習・90時間・2単位	教員名	岩本 美代子
概要及び目的	<p>入院治療を必要とする対象者の健康の回復を支えるために必要な看護を学ぶ。 この目的をもって実習のできるように看護師として長年の臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>		
授業内容	<p>【目標】 看護の思考プロセスの活用をとおして、入院治療を必要とする対象者の健康状態を整えるための看護を理解する。</p> <p>【実習のねらい】 看護の基本となる実習Ⅱでは、5つの視点（発達段階、健康障害の種類、健康の段階、生活過程の特徴、もてる力）から入院治療を必要とする対象者ととらえ、健康の回復過程を支え、対象者の日常生活がその人が健康な時におこなっていた方法に、より近づけられるように、知識を活用し根拠をもって看護を判断し実践する。このような思考プロセスの活用をとおして入院治療が必要な対象者への健康状態を整える*ための看護について理解する。</p> <p>*健康状態を整えるとは、対象が本来もつ自然治癒力を発揮しやすい環境を整え、健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を目指すことである。</p>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 60点以上を合格とし、不合格者は1回のみ再実習が可能である。 2. 実習指導者の意見も含め、評価基準表をもとに学生と教員が評価する。 3. 合格の可否は審議し、決定する。 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護実習Ⅱの要項 2. 自己学習ファイル 3. 各教科教科書・参考書 		
備考			

年次・学期	1年次・前期～後期	担当科	看護学科																		
科目名	成人看護学概論 講義・30時間・1単位	教員名	都甲 裕美																		
概要及び目的	<p>成人期にある人の成長・発達について、ライフステージと健康生活の観点から理解し、成人期にある人の特性、社会とのかかわり、健康問題とその特徴について学ぶ。</p> <p>成人の特性や能力に応じたアプローチの方法を理解する。</p> <p>わが国における保健問題の動向と保健対策の現状を、さまざまな指標によって理解し、成人期における疾病の予防対策と健康の保持・増進に向けたアプローチの方法について、看護の役割と関連づけながら学習する。</p> <p>健康レベルの変化の特徴に応じた成人期にある患者とその家族への看護を学習する。</p>																				
授業内容	<p>(担当：都甲) 15H</p> <ol style="list-style-type: none"> 成人の生活と健康 <ol style="list-style-type: none"> 成人の特徴 成人の生活状況の特徴 成人に特有な健康問題の特徴 成人への看護アプローチの基本 <ol style="list-style-type: none"> 成人教育学 エンパワメントエデュケーション 自己効力 ストレスコーピング セルフマネジメント <p>(担当：都甲) 15H</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業形式</th> <th>内容</th> <th>キーワード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2回目 DVD視聴・講義</td> <td>急激な健康破綻により障害を受けた成人期にある対象者の事例を通して健康レベルの変化に応じた看護について考える。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3回目講義</td> <td>健康生活の急激な破綻から回復を促すために急性期にある対象者および家族への看護を学ぶ。</td> <td>ヘルスプロモーション・危機理論</td> </tr> <tr> <td>4回目講義</td> <td>障害がある人の生活を支援するために、リハビリテーション期の看護について学ぶ。 様々な治療過程にある対象者の安全と回復促進のための看護について学ぶ。</td> <td>障害受容・障害の認識過程</td> </tr> <tr> <td>5・6回目 個人ワーク・講義</td> <td>慢性期にある対象者の慢性疾患との共存を支え、自己コントロールを促すための看護について考える。</td> <td>アビリアランス・セルフケア セルフマネジメント・エンパワメント・自己効力</td> </tr> <tr> <td>7回目講義</td> <td>人生の最後の時を支える看護について学ぶ。</td> <td>終末期・ターミナルケア・ホスピスケア・緩和ケア・全人的苦痛</td> </tr> </tbody> </table>			授業形式	内容	キーワード	1・2回目 DVD視聴・講義	急激な健康破綻により障害を受けた成人期にある対象者の事例を通して健康レベルの変化に応じた看護について考える。		3回目講義	健康生活の急激な破綻から回復を促すために急性期にある対象者および家族への看護を学ぶ。	ヘルスプロモーション・危機理論	4回目講義	障害がある人の生活を支援するために、リハビリテーション期の看護について学ぶ。 様々な治療過程にある対象者の安全と回復促進のための看護について学ぶ。	障害受容・障害の認識過程	5・6回目 個人ワーク・講義	慢性期にある対象者の慢性疾患との共存を支え、自己コントロールを促すための看護について考える。	アビリアランス・セルフケア セルフマネジメント・エンパワメント・自己効力	7回目講義	人生の最後の時を支える看護について学ぶ。	終末期・ターミナルケア・ホスピスケア・緩和ケア・全人的苦痛
授業形式	内容	キーワード																			
1・2回目 DVD視聴・講義	急激な健康破綻により障害を受けた成人期にある対象者の事例を通して健康レベルの変化に応じた看護について考える。																				
3回目講義	健康生活の急激な破綻から回復を促すために急性期にある対象者および家族への看護を学ぶ。	ヘルスプロモーション・危機理論																			
4回目講義	障害がある人の生活を支援するために、リハビリテーション期の看護について学ぶ。 様々な治療過程にある対象者の安全と回復促進のための看護について学ぶ。	障害受容・障害の認識過程																			
5・6回目 個人ワーク・講義	慢性期にある対象者の慢性疾患との共存を支え、自己コントロールを促すための看護について考える。	アビリアランス・セルフケア セルフマネジメント・エンパワメント・自己効力																			
7回目講義	人生の最後の時を支える看護について学ぶ。	終末期・ターミナルケア・ホスピスケア・緩和ケア・全人的苦痛																			
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 筆記試験 出席点 レポート 																				
テキスト	系統看護学講座『専門Ⅱ 成人看護学Ⅰ成人看護学総論』医学書院 系統看護学講座『専門Ⅰ 臨床看護総論』 国民衛生の動向 その他：資料配布																				
備考																					

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	生命危機状態・手術を受ける人への看護 講義・30時間・1単位	教員名	上浦 弘美・山下 敬子 他
概要及び目的	生命危機状態・手術を受ける人への看護援助について学ぶ。 循環機能障害を持つ患者をとりあげ、生命危機状態にある患者の特徴と看護について学ぶ。		
授業内容	1. 生命危機状態・手術療法を受ける人への看護（上浦） 手術侵襲と生体反応 周術期看護の概念 全身麻酔及び局所麻酔で手術を受ける人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・術前看護 <ul style="list-style-type: none"> 術前評価 全身状態を整える ・術中看護 <ul style="list-style-type: none"> 直接介助看護師と間接介助看護師の役割 ・術後看護 <ul style="list-style-type: none"> 異常の早期発見 疼痛管理 合併症予防 離床に向けて 救急看護の基礎		
	2. 循環機能障害をもつ患者への看護（山下 他）		
		授業内容	キーワード
	1 コマ	生命危機状態にある人への看護 循環器疾患を理解するための基礎知識（解剖生理）	危機 冠状動脈 冠危険因子 メタボリックシンドロームと動脈硬化
	2 コマ	心不全患者の看護 ・症状と病態、胸部X線の所見、治療法 ・浮腫、チアノーゼに対する看護	左心不全と右心不全 動脈血ガス分析 中心静脈圧 胸部XP（CTR）
	3 コマ	虚血性心疾患者の看護① ・虚血性心疾患のリスクファクター ・狭心症の症状、治療と看護	胸痛 心電図変化
	4 コマ	虚血性心疾患者の看護② ・心筋梗塞の症状、治療と看護 ・致死的不整脈	PCI、ステント 血液データ（CK-MB、トロポニンT）
	5 コマ	循環器疾患の薬物療法について ・抗凝固薬、抗血小板薬、降圧薬、抗不整脈薬	ワーファリン、tPA ラシックス、ジギタリス中毒 /3遮断薬、Ca拮抗薬
6 コマ	循環器疾患の主な検査と看護 ・心電図、心臓カテーテル法、胸X P、UCG 血行モニタリング、核医学検査、CT、MRI、血液検査	正常心電図	
7 コマ	ペースメーカーについて ・ペースメーカーを装着した患者への看護	日常生活上の注意	
評価方法	1. 出席点、遅刻、早退、受講態度の総合で評価する。 2. 課題		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座別巻「臨床外科看護総論」医学書院 ・高齢者と成人の周手術期看護 1 外科／病棟における術前看護 医歯薬出版 ・高齢者と成人の周手術期看護 2 術中／術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版 ・必要に応じてプリントを配布 		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	身体機能の回復を目指す人への看護 講義・30時間・1単位	教員名	都甲 裕美・浅越 博之
概要及び目的	脳・神経／運動器疾患によりさまざまな身体機能に障害をきたし、身体機能の回復を目指す人の看護援助について学ぶ。		
授業内容	脳神経（担当：都甲）15H		
	授業形式	内容	
1回目講義	脳卒中事例のDVDを視聴し、脳・神経疾患の特徴と障害をもつ対象者に必要な看護を考える。 ・障害受容 ・リハビリテーション ・セルフケア		
2回目講義	脳に障害のある対象者の病態生理・検査（神経学的検査）・治療について理解する。		
3・4・5回目講義 グループワーク	脳・神経疾患により障害をもつ対象者の事例をもとに主要症状と看護について学ぶ。 ・意識障害と看護 ・高次脳機能障害と看護 ・運動麻痺と看護 ・言語障害と看護		
6回目講義・演習	・神経学的検査を必要とする対象への援助技術 ・頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア		
7回目講義	脳・神経疾患による障害から身体機能回復を目指す人への看護 ・回復の促進 ・生活の再調整		
授業内容	運動器（担当：浅越）15H		
	授業形式	内容	
1・2コマ講義	・援助の為の主な知識と技術 ・症状に対する看護 ・検査を受ける患者の看護		
3・4コマ講義	・症状に対する看護 ・保存療法を受ける患者の看護 ギブス固定、牽引療法		
5コマ講義	・手術を受ける患者の看護 運動器の手術を受ける患者の看護 ・経過に応じた患者の看護 急性期、回復期、慢性期、終末期患者の看護		
6コマ講義	・疾患をもつ患者の看護 大腿骨頸部骨折、腰椎（腰椎椎間板ヘルニア）、 脊髄損傷 骨髄腫瘍、腰痛		
7コマ講義	・脊髄損傷患者の看護について DVD: 滝川英治ドキュメンタリー「それでも、前へ」		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点 3. レポート		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ	成人看護学〔7〕脳・神経	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ	成人看護学〔10〕運動器	医学書院
備考	運動器（担当：浅越） 2コマ目以降は、授業開始時にミニテストを実施予定		

年次・学期	2年次・通年	担当科	看護学科
科目名	生活習慣の改善を必要とする人への看護 講義・30時間・1単位	教員名	山本 美穂子・上浦 弘美 他
概要及び目的	生涯にわたり疾病コントロールを必要とする人への看護援助について理解する。 糖代謝障害、排泄機能障害をもつ患者をとりあげ、生涯にわたりコントロールを必要とする患者のセルフケアの獲得に向けた看護の役割と方法を学ぶ。		
授業内容	1. 内分泌・代謝障害をもつ患者への看護 上浦 他 ・糖尿病の分類（Ⅰ型・Ⅱ型） ・診断・程度を把握するための検査 ・高血糖に伴う症状と看護 ・食事療法・運動療法と看護 ・薬物療法と日常生活の指導 薬物療法の作用・副作用 服薬指導・インスリン自己注射の指導 シックデイ・フットケア ・合併症（急性・慢性）の予防と看護 ・長期セルフケアに伴う問題とセルフコントロールへの看護 ・糖尿病事例をもとに看護を考える		
	2. 排泄機能障害をもつ患者の看護 山本 他		
	回数	授業内容	テキスト
	1	腎・泌尿器疾患の医療と動向 慢性疾患をもつ患者の特徴 看護の役割 腎・泌尿器の構造と機能	成人看護学総論 腎・泌尿器
	2	腎・泌尿器の構造と機能 症状に対する治療と看護	腎・泌尿器
	3	慢性腎臓病（CKD）患者の看護 病態像、症状、検査のアセスメント 腎生検を受ける患者の看護	腎・泌尿器
	4	セルフケアを支える看護 セルフケア、セルフマネージメントの概念 行動変容を高める看護	成人看護学総論 腎・泌尿器
	5	慢性腎臓病（CKD）の診断基準と重症度分類 慢性腎臓病（CKD）の病期に応じた生活指導	腎・泌尿器
6	透析療法を受ける患者の看護 保存期から透析導入前（治療選択期）の患者の看護 透析療法の適用基準と選択	腎・泌尿器	
7	血液透析、腹膜透析患者の看護 透析と社会保障 シヤント造設と管理 食事管理 血液透析維持期の検査目標値、合併症の理解と自己管理に向けた支援 血液透析治療での看護の実際 治療前、治療中、治療後の患者の看護と透析機器の準備とチェック		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点・受講態度 3. 課題レポート		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔11〕アレルギー、膠原病、感染症 医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科																																										
科目名	緩和ケアを必要とする人への看護 講義・30時間・1単位	教員名	山本 美穂子																																										
概要 及び 目的	<p>人生の最期のときにある人や治癒することが困難な状態にある人の、全人的苦痛を緩和しその人が望む人生を送るための看護援助について理解する。</p> <p>緩和ケアにおける倫理的問題、緩和ケアにおけるコミュニケーションと意思決定支援、苦痛を緩和するための症状マネジメントと看護、家族への支援について、呼吸機能障害、造血器障害をもつ対象者の看護をとおして学ぶ。</p>																																												
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業内容</th> <th>テキスト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>緩和ケアとは何か 呼吸器疾患の医療と動向 患者の特徴 看護の役割 呼吸の構造と機能</td> <td>成人看護学総論 緩和ケア 呼吸器</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>肺がん事例患者の全人的苦痛をアセスメント</td> <td rowspan="2">緩和ケア 呼吸器</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>病態像 症状 検査データ 精神的 社会的 スピリチュアル</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>呼吸器症状に対する看護（咳嗽・咯痰、血痰・咯血、呼吸困難）</td> <td>緩和ケア 呼吸器</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>気管支鏡検査を受ける患者の看護 胸腔ドレナージを受ける患者の看護</td> <td>緩和ケア 呼吸器</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>肺がんの治療と看護 治療計画（レジメン） 化学療法、放射線療法の副作用に対する看護</td> <td>緩和ケア 呼吸器</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>がん性疼痛の治療法 WHO式がん疼痛治療法 除痛ラダー 鎮痛薬の分類 オピオイドの副作用</td> <td>緩和ケア 呼吸器</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>血液・造血器疾患の医療の動向 患者の特徴 看護の役割</td> <td rowspan="2">緩和ケア 血液・造血器</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>血液の成分とはたらき（造血幹細胞の分化と成熟 止血機構と線溶 免疫）</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>貧血による起こる症状と看護 貧血の判定基準 赤血球指数による貧血の分類 貧血症の種類と特徴</td> <td>緩和ケア 血液・造血器</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>造血器腫瘍とは 急性白血病と慢性白血病の特徴 白血病の治療 支持療法 輸血療法を受ける患者の看護 造血幹細胞移植の概要 意思決定の支援 治療開始前の患者教育</td> <td>緩和ケア 血液・造血器</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>同種幹細胞移植を受ける患者の看護</td> <td rowspan="2">緩和ケア 血液・造血器</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>移植の経過に沿った全人的苦痛を緩和するための看護</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>死にゆく患者の心理と家族への看護</td> <td>緩和ケア</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業内容	テキスト	1	緩和ケアとは何か 呼吸器疾患の医療と動向 患者の特徴 看護の役割 呼吸の構造と機能	成人看護学総論 緩和ケア 呼吸器	2	肺がん事例患者の全人的苦痛をアセスメント	緩和ケア 呼吸器	3	病態像 症状 検査データ 精神的 社会的 スピリチュアル	4	呼吸器症状に対する看護（咳嗽・咯痰、血痰・咯血、呼吸困難）	緩和ケア 呼吸器	5	気管支鏡検査を受ける患者の看護 胸腔ドレナージを受ける患者の看護	緩和ケア 呼吸器	6	肺がんの治療と看護 治療計画（レジメン） 化学療法、放射線療法の副作用に対する看護	緩和ケア 呼吸器	7	がん性疼痛の治療法 WHO式がん疼痛治療法 除痛ラダー 鎮痛薬の分類 オピオイドの副作用	緩和ケア 呼吸器	8	血液・造血器疾患の医療の動向 患者の特徴 看護の役割	緩和ケア 血液・造血器	9	血液の成分とはたらき（造血幹細胞の分化と成熟 止血機構と線溶 免疫）	10	貧血による起こる症状と看護 貧血の判定基準 赤血球指数による貧血の分類 貧血症の種類と特徴	緩和ケア 血液・造血器	11	造血器腫瘍とは 急性白血病と慢性白血病の特徴 白血病の治療 支持療法 輸血療法を受ける患者の看護 造血幹細胞移植の概要 意思決定の支援 治療開始前の患者教育	緩和ケア 血液・造血器	12	同種幹細胞移植を受ける患者の看護	緩和ケア 血液・造血器	13	移植の経過に沿った全人的苦痛を緩和するための看護	14	死にゆく患者の心理と家族への看護	緩和ケア
回数	授業内容	テキスト																																											
1	緩和ケアとは何か 呼吸器疾患の医療と動向 患者の特徴 看護の役割 呼吸の構造と機能	成人看護学総論 緩和ケア 呼吸器																																											
2	肺がん事例患者の全人的苦痛をアセスメント	緩和ケア 呼吸器																																											
3	病態像 症状 検査データ 精神的 社会的 スピリチュアル																																												
4	呼吸器症状に対する看護（咳嗽・咯痰、血痰・咯血、呼吸困難）	緩和ケア 呼吸器																																											
5	気管支鏡検査を受ける患者の看護 胸腔ドレナージを受ける患者の看護	緩和ケア 呼吸器																																											
6	肺がんの治療と看護 治療計画（レジメン） 化学療法、放射線療法の副作用に対する看護	緩和ケア 呼吸器																																											
7	がん性疼痛の治療法 WHO式がん疼痛治療法 除痛ラダー 鎮痛薬の分類 オピオイドの副作用	緩和ケア 呼吸器																																											
8	血液・造血器疾患の医療の動向 患者の特徴 看護の役割	緩和ケア 血液・造血器																																											
9	血液の成分とはたらき（造血幹細胞の分化と成熟 止血機構と線溶 免疫）																																												
10	貧血による起こる症状と看護 貧血の判定基準 赤血球指数による貧血の分類 貧血症の種類と特徴	緩和ケア 血液・造血器																																											
11	造血器腫瘍とは 急性白血病と慢性白血病の特徴 白血病の治療 支持療法 輸血療法を受ける患者の看護 造血幹細胞移植の概要 意思決定の支援 治療開始前の患者教育	緩和ケア 血液・造血器																																											
12	同種幹細胞移植を受ける患者の看護	緩和ケア 血液・造血器																																											
13	移植の経過に沿った全人的苦痛を緩和するための看護																																												
14	死にゆく患者の心理と家族への看護	緩和ケア																																											
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 筆記試験 出席点・受講態度 課題レポート 																																												
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器 医学書院 ナーシンググラフィカ 成人看護学⑦ 緩和ケア メディカ出版																																												
備考																																													

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	成人看護を展開するための技術 講義・30時間・1単位	教員名	寺岡 仁子・清水 恵子
概要及び目的	<p>消化器（主として膵臓・肝臓・胆道系）疾患を持つ患者を通して、検査・治療の看護、症状の緩和に向けた看護を学ぶ。</p> <p>消化器疾患を持つ患者に対して各場面での（検査・治療・退院時など）、説明を行うことができる。</p> <p>栄養代謝障害をもつ患者をとおして、検査・治療の看護、症状の緩和に向けた看護を学ぶ。</p> <p>消化器障害をもつ患者に対しての、術前術後を通しての看護を学ぶ。</p>		
授業内容	<p>(担当：寺岡) 15H</p> <ol style="list-style-type: none"> Introduction（統計含む） 解剖・生理 肝臓・胆道系・膵臓を中心に 症状・病態生理 肝臓・胆道系・膵臓を中心に <ol style="list-style-type: none"> 1) 症状・病態生理など 2) 症状・病態生理に対しての看護 診察・検査 肝臓・胆道系・膵臓を中心に <ol style="list-style-type: none"> 1) 診察・検査 2) 診察・検査に対しての看護 治療 肝臓・胆道系・膵臓を中心に <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物療法、栄養・食事療法、放射線療法について 2) 薬物・化学療法、栄養・食事療法、放射線療法を受ける患者の看護 疾患 <ol style="list-style-type: none"> 1) 肝臓の疾患について <ol style="list-style-type: none"> ①肝炎 ②肝硬変症 ③門脈圧亢進症 ④肝不全 ⑤肝がん 2) 肝臓疾患の患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> ①肝炎 ②肝硬変症 ③食道動脈瘤 ④肝がん 3) 胆道系 <ol style="list-style-type: none"> ①胆嚢炎、胆管炎 ②胆管がん ③胆嚢がん 4) 胆道系疾患の患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> ①胆嚢炎 ②胆石発作 ③胆汁ドレナージ 5) 膵臓 <ol style="list-style-type: none"> ①膵炎 ②膵臓がん 6) 膵臓疾患の患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> ①膵炎 ②膵臓がん 7) 内視鏡的胆道ドレナージの看護 <p>以上の内容について、解剖生理の学習を常に並行させながら授業を行っていきます。</p> <p>(担当：清水) 15H</p> <p>消化器症状をもつ患者への看護（周手術期の患者看護）食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・人工肛門を中心に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消化器疾患に関する医療の動向や身体的・社会的問題および精神の問題を考察する ・患者の特徴をふまえて援助の特徴と家族支援の重要性について ・診察と診断の方法について、検査の意義・目的・実施法・適応疾患について ・治療処置の基本的な考え方をふまえ各治療法の概要と適応疾患について ・主な消化器疾患について分類・原因・症状・診断・治療などの理解を深め消化器疾患を看護する必要な知識について ・内科的・外科的治療の両面から治療と看護の理解を行い、手術を受ける患者の看護について ・急性期・慢性期・回復期・終末期の4期に分け、それぞれの経過に応じた看護援助の内容を概括し、継続看護の意義について ・人工肛門患者の看護 ・事例を通しての看護展開 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 出席状況・授業態度 他 		
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院</p> <p>高齢者と成人の周手術期看護1 外来／病棟における術前看護 第2版 医歯薬出版</p> <p>高齢者と成人の周手術期看護2 術中／術後の生体反応と急性期看護 第2版 医歯薬出版</p> <p>配布資料</p>		
備考	<p>1年次 該当の解剖生理・病理は修了</p> <p>2年次 治療論Ⅱ（周手術期）は後期に開講</p>		

年次・学期	1 年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	老年看護学概論 講義・30 時間・1 単位	教員名	大森 和子・大本 明美
概要 及び 目的	人は誕生から老年期までの長い生涯を生きる。人生の最終ステージである老年期は、加齢の変化や健康障害に適応してより豊かに生きることが万人の願いである。その実現のために、高齢者を多面的に理解し、生活を支援するための看護の基礎と役割を学ぶ。		
授業内容	<p>担当：大森</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の理解 (1) 老いを学ぶ 健康指標から見た高齢者の理解 2. 老年期の理解 (2) 老いること 老いを生きること ライフサイクルからみた老年期 3. 老年看護の基盤 老年看護の成り立ち 老年看護の役割 老年看護に役立つ理論 4. 加齢に伴う変化の理解 (1) 疾病をめぐる特徴 体の加齢変化とアセスメント 5. 加齢に伴う変化の理解 (2) 精神機能の変化 社会機能の変化 6. 加齢の変化と疾患のなかで生きる高齢者を理解する <p>担当：大本</p> <ol style="list-style-type: none"> I Introduction 高齢社会と統計 II 高齢者における保健医療福祉の動向 <ol style="list-style-type: none"> 1 総論 2 介護保険① 3 介護保険② 4 医療 5 多職種協働 III 高齢者の権利擁護 <ol style="list-style-type: none"> 1 基本となること 2 権利擁護と虐待、身体拘束 3 権利擁護のための制度 IV 認知症の基本 <ol style="list-style-type: none"> 1 認知症の基礎知識 2 認知症高齢者の対応 <p style="text-align: center;">以上の内容について、9 コマ使って行います。</p> <p>☆ゴール</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「老年期とはどのようなものだろうか、そして老年期を生きる上で、社会のしくみはどうなっているのだろうか」これらについて多方面から理解することができる。 2 自分自身が社会の動きに注目し、その変化を知ることができる。 <p style="text-align: right;">この2点です。</p> <p>☆授業方法について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 単元の終わりなどに短時間のグループワークを短時間取り入れて、知識確認及び学生同士の考えを共有する。 2 3～9 コマの授業の始め15 分間程度、グループで調べた高齢者に関するニュースを発表し、クラス内で共有し意見交換を行う。 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. グループ課題、レポート 3. 授業態度、出席状況 <p style="text-align: right;">この3つを総合して評価します。</p>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 配布資料 2. 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	高齢者の健康生活と支援 講義・30時間・1単位	教員名	宗次 美登理・大本 明美
概要及び目的	<p>高齢者は加齢に伴い種々の機能の変化が生じ、日常生活に影響を及ぼすだけでなく、疾患の引き金となる。また、高齢者が一度健康を破綻すると、予備力の低下から健康回復は遅延し、慢性的経過をたどりやすい。したがって老年看護の実践においては、高齢者個々の健康問題を全体的に捉え、看護ニーズを判断することが求められる。ここでは、老年期にある対象の加齢に伴う変化をふまえ、健康状態に応じた日常生活の援助を学ぶ。</p>		
授業内容	<p>担当：宗次</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の加齢変化 2～3. 高齢者とのコミュニケーション 4. 高齢者の転倒と看護① 5. 高齢者の転倒と看護② 6. 高齢者の脱水予防と看護 7. 高齢者の薬物療法 <p>担当：大本</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 高齢者の褥瘡予防と看護① 9. 高齢者の褥瘡予防と看護② 10. 高齢者の褥瘡予防と看護③ 11. 高齢者の栄養と摂食① 高齢者の食事・食生活を支える看護 —美味しく口から食べる— 12. 高齢者の栄養と摂食② 高齢者の食事・食生活を支える看護 —美味しく口から食べる— 13. 高齢者の排泄① 高齢者の排泄を支える看護 —高齢者の尊厳をまもる排泄ケア— 14. 高齢者の排泄② 高齢者の排泄を支える看護 —高齢者の尊厳をまもる排泄ケア— 15. 終講試験 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 授業態度・出席点を加味する 		
テキスト	<p>資料配布 参考書：系統看護学講座：「老年看護学」医学書院 系統看護学講座：「老年看護病態・疾患論」医学書院</p>		
備考			

年次・学期	2年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	高齢者の健康障害と看護 講義・30時間・1単位	教員名	村上 昌穂・宗次 美登理
概要 及び 目的	<p>高齢者の特徴的な疾病・障害を理解し、状況や症状に応じた看護の視点と予防を重視した看護の基本を学ぶ。</p> <p>また、入院治療やリハビリテーションを必要とする高齢者の特徴を理解し、高齢者が最後まで望む場で暮らせるための看護の役割を学ぶ。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に見られる主な疾患と病態 (村上) <ul style="list-style-type: none"> ・脳神経系の障害 (脳血管障害・神経変性疾患) ・呼吸器系の障害 (感染・閉塞性肺機能障害) ・循環器系の障害 (心機能障害・心筋障害・血管の障害) ・栄養・内分泌・排泄機能障害 ・運動器・感覚器系の障害 (骨関節の障害・聴覚障害・視覚障害) ・その他 (腫瘍、アレルギー、皮膚疾患等) 2. 認知症のある高齢者と家族への看護 2~9 (宗次) 3. うつ状態にある高齢者の看護 4. せん妄のある高齢者の看護 5. 白内障のある高齢者の看護 6. 高齢者の感染への看護 7. リハビリテーションの必要な高齢者の看護 8. 高齢者の退院支援 9. エンドオブライフ・ケアと家族への看護 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験 2. レポート 		
テキスト	<p>系統看護学講座『専門分野 20 老年看護学』医学書院 系統看護学講座『専門分野 21 老年看護 病態・疾患論』医学書院 その他：VTR・資料配布</p>		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科																					
科目名	老年看護を展開するための技術 講義・15時間・1単位	教員名	有松 実里																					
概要 及び 目的	健康障害のある高齢者の事例を通して、老年期の発達課題と健康障害との関連、急性期・慢性期・回復期の看護、継続・退院時の看護について総合的に学習する。																							
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>内容</th> <th>授業の方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>老年看護の展開における考え方について</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2・3回目</td> <td>事例展開の実際（グループワーク） ・急性期にある高齢者の看護について</td> <td>GW</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>プレゼンテーション ・急性期にある高齢者の看護について、グループごとに発表する。</td> <td>GW 講義</td> </tr> <tr> <td>5・6回目</td> <td>事例展開の実際（グループワーク）・回復期にある高齢者の看護について</td> <td>GW</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> <td>プレゼンテーション ・回復期にある高齢者の看護について、グループごとに発表する。</td> <td>GW 講義</td> </tr> <tr> <td>8回目</td> <td>筆記試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			授業回数	内容	授業の方法	1回目	老年看護の展開における考え方について	講義	2・3回目	事例展開の実際（グループワーク） ・急性期にある高齢者の看護について	GW	4回目	プレゼンテーション ・急性期にある高齢者の看護について、グループごとに発表する。	GW 講義	5・6回目	事例展開の実際（グループワーク）・回復期にある高齢者の看護について	GW	7回目	プレゼンテーション ・回復期にある高齢者の看護について、グループごとに発表する。	GW 講義	8回目	筆記試験	
授業回数	内容	授業の方法																						
1回目	老年看護の展開における考え方について	講義																						
2・3回目	事例展開の実際（グループワーク） ・急性期にある高齢者の看護について	GW																						
4回目	プレゼンテーション ・急性期にある高齢者の看護について、グループごとに発表する。	GW 講義																						
5・6回目	事例展開の実際（グループワーク）・回復期にある高齢者の看護について	GW																						
7回目	プレゼンテーション ・回復期にある高齢者の看護について、グループごとに発表する。	GW 講義																						
8回目	筆記試験																							
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 筆記試験 課題提出 出席・授業態度 																							
テキスト	資料配布 参考書：系統看護学講座：「老年看護学」医学書院 系統看護学講座：「老年看護病態・疾患論」医学書院																							
備考																								

年次・学期	1年次・前期	担当科	
科目名	子ども看護学概論 講義・15時間・1単位	教員名	籾内 あさ子
概要 及び 目的	<p>子どもは子ども特有の心理を持ち、環境との相互作用のなかで生活し成長発達し続ける存在である。また、ひとりの人間としての人格を持ち、尊重されるべき存在であることを重視し、子どもの人権について理解する。現代の子どもと家族の概況を捉え小児看護の役割と課題を知り、子どもをとりまく保健対策についても理解する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 小児看護の理念と看護の概念 <ol style="list-style-type: none"> 小児医療・小児看護の変遷：子ども観の変遷 小児看護の目的・対象 子どもの人権と看護：子どもと倫理 児童憲章 子どもと家族をとりまく社会の変化と問題（虐待） 子どもの看護に求められる看護者の役割と課題 子どもの成長発達過程と発達課題：定義・発達の一般原則 影響因子（家庭環境のアセスメント） 子どもと家族をめぐる環境の変化と保健：少子高齢化社会 情報化社会 小児の事故 子どもの虐待の背景と求められる援助 子どもをめぐる法律と施策：法律 母子保健行政施策（母子保健の動向と看護） 予防接種 学校保健と健康相談 医療・療育・生活に関わる職種との連携 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 筆記試験 小テスト 課題レポート 		
テキスト	<p>系統看護学講座『専門分野 22 小児看護学概論・小児臨床看護総論（1）』医学書院 参考資料：国民衛生の動向</p>		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	子どもの健康生活への援助 講義・30時間・1単位	教員名	賀川 奈美
概要 及び 目的	<p>子どもの各期の特徴と成長・発達を理解し、成長・発達に適した生活ができる方法を理解する。 また、これら子どもの理解に基づき、子どもに起こりやすい健康課題の特徴を、身体的・心理社会的側面から理解する。 そして、子どもの生命を守り、健康の保持増進と疾病予防を図る生活援助技術について学ぶ。</p>		
授業内容	回数	授業内容	テキスト
	1	授業内容の説明 小児各期の成長・発達について	講義
	2	・各期の成長・発達の特徴とその評価	
	3	小児各期の栄養 ・栄養の意義、食育、食事摂取基準、発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護など	講義
	4	成長発達のまとめ：各年齢の特徴をグループでまとめる (1・3～4・6～7・9～10か月、1歳、1歳6か月、2・3・4・5・6歳)	グループワーク
	5	新生児 (1) 新生児の健康増進と安全な環境の提供 身体の発育、運動能力の発育、睡眠、排泄、清潔・衣服 (2) 新生児のいる家族への看護 愛着形成、親子関係の調整、事故防止、感染予防、地域保健サービスの活用	講義
	6	乳児 (1) 乳児の健康増進と安全な環境の提供 遊びの意義、睡眠、排泄、清潔・衣服 (2) 乳児のいる家族への看護 抱指関係の確立、母子分離不安、事故防止、地域保健サービスの活用	講義
	7	身体計測（身長・体重・頭囲・胸囲）	演習
	8	日常生活の世話（乳児の抱き方・おむつ交換・更衣）	グループワーク
	9	幼児・学童 (1) 幼児・学童の健康増進とセルフケアの発達 ・幼児の発達、基本的生活習慣の確立、遊びの発達社会性 (2) 幼児・学童のいる家族への看護 ・事故防止、地域保健サービスの活用 ・学童期の子どもと家族の関係、生活習慣病予防、安全教育と安全管理・学童期の子どもと家族の関係、生活習慣病予防、安全教育と安全管理	講義
	10	バイタルサイン測定（呼吸・脈拍/心拍・血圧・体温他）	演習
	11		グループワーク
	12	成長・発達のまとめ発表	プレゼンテーション
	13	思春期・青年期 (1) 思春期の子供の健康増進とアイデンティティの確立 ・生活の問題、こころの問題 (2) 思春期の子どもがいる家族への看護 ・思春期の子どもと家族の関係、思春期と性	講義
	14	子どものアセスメント フィジカルアセスメント、身体的アセスメント、バイタルサイン、身体測定	講義
15	終講試験		
評価方法	<p>1. 筆記試験 2. 事前学習への取り組み、提出状況 3. 校内演習 態度</p>		
テキスト	系統看護学講座『専門Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論(1)』医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	子どもに起こりやすい疾病 講義・30時間・1単位	教員名	片山 雅博
概要 及び 目的	<p>小児科学は、小児の健康を守りそれを増進させることによって子どもを身体的・精神的・社会的に健康な状態の成人に育てるための学問の一つです。</p> <p>小児看護学では、小児を理解（小児の成長・発達、年齢的特性等小児の特徴）した上で、小児特有の疾患について、その特徴及び病態生理を理解し、併せてその症状の観察方法も学ぶことを目的とします。</p> <p>それによって、各種の疾患を有する子どもたちの看護に役立てる知識（と経験）を身につけると同時に、医療従事者として、母親・父親に子育てや看護の“アドバイス”のできる立場にもなれる看護師になることを目的とします。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 先天異常 染色体異常（ダウン症候群、ターナー症候群）、先天性代謝異常等 2. 新生児、低出生体重児 生理的黄疸、頭蓋内出血、新生児仮死、呼吸窮迫症候群 3. 代謝性疾患 糖尿病 4. 内分泌疾患 成長ホルモン分泌不全、甲状腺機能低下・機能亢進症、先天性副腎過形成 5. 免疫、アレルギー疾患 免疫の働き、アレルギーの病態、気管支喘息、食物アレルギー 6. 感染症 ウイルス性（麻疹、風疹、水痘、ムンプス、脳炎、肝炎）細菌性（百日咳、溶連菌感染症、ブ菌感染症、化膿性髄膜炎、結核） 7. 呼吸器疾患 クループ症候群、気管支炎、細気管支炎、肺炎、膿胸 8. 循環器疾患 先天性心疾患（心室中隔欠損症、ファロー四徴症）、心不全、川崎病 9. 消化器疾患 肥厚性幽門狭窄、腸重積、ウイルス性肝炎、胆道閉鎖症、感染性胃腸炎 10. 血液疾患 貧血（鉄欠乏性、再生不良性、溶血性）、紫斑病（血小板減少性、血管性） 11. 悪性腫瘍 急性リンパ芽球性白血病、脳腫瘍、固形腫瘍（ウイルムス、神経芽腫） 12. 腎・泌尿器疾患 急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、膀胱尿管逆流現象、尿路感染症 13. 神経疾患 水頭症、頭蓋内出血、てんかん・熱性けいれん、髄膜炎、神経皮膚症候群 発達障害、注意欠陥多動症 14. その他 		
評価方法	小児の特徴及び疾患の病態生理の理解度を筆記試験により評価・判定する。		
テキスト	系統看護学講座：専門分野Ⅱ小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・前～後期	担当科	看護学科	
科目名	子どもの健康障害と看護 講義・30時間・1単位	教員名	山下 敬子	
概要 及び 目的	様々な健康段階にある子どもとその家族の看護上の問題を理解し、子どもによくみられる症状、および、治療・処置に伴う援助技術について学ぶ。また、社会問題となっている育児環境の変化からくる不登校やいじめ、虐待などの問題も小児看護の対象として捉え、健全な家族機能が図れるための援助を学ぶ。			
授業内容	回	項目	内容	方法
	1	疾病・障害が子どもと家族に及ぼす影響	子どもと家族への影響因子について 小児各期へのプラス影響・マイナス影響	講義
	2	外来受診や入院を必要とする子どもと家族の看護	1) 外来看護 2) 外来の環境 3) 入院が子ども家族に及ぼす栄養 4) 小児の入院環境 5) 入院時の看護	講義
	3 4 5	小児期に多い特徴的な症状と緊急時の看護	1) 脱水・発熱・発疹・解熱方法・隔離 2) 嘔吐・下痢・便秘・栄養・洗腸 3) 呼吸困難・酸素吸入 4) けいれん・意識障害 5) 出血・ショック・救急蘇生 6) 誤嚥・中毒・熱傷・溺水	講義
	6	検査・処置を受ける子どもの看護	検査検体とその看護 1) 薬物動態と薬物量の決定 2) 与薬 3) 採血・注射・輸液 4) 抑制 5) 検体採取	講義
	7		慢性疾患をもつ子どもと家族の看護「ネフローゼ・腎炎・糖尿病」	
	8 9 10		手術を受ける子どもと家族の看護「口唇・口蓋裂」プリパレーション	演習
	11 12		終末期にある子どもと家族の看護 1) 子どもの発達段階と状況に応じた死の理解 2) 家族の反応 3) ターミナル期の子どもと家族の看護	講義 ・ VTR
	13	子どもの虐待 災害にあった子どもたち	グループワーク	
	評価方法	1. 終講試験 2. 提出物 3. 出席状況		
テキスト	1. 系統看護学講座 22「小児看護学 (1) 小児看護学概論・小児総論」医学書院 2. 系統看護学講座 23「小児看護学 (2) 小児臨床看護各論」医学書院			
備考				

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	母性看護学概論 講義・15時間・1単位	教員名	有遣 順子
概要及び目的	<p>次世代を担う母性の育成の意義を学ぶ、看護の目的を理解する。</p> <p>母性の意義や、性についての概念を理解して母性看護の特性を学ぶ。現代社会の動向を踏まえ、母性意識、父性意識が育つための環境因子について考える基礎を養う。対象のウェルネスのために看護の基本的な考えを理解する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の基盤となる概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシュアリティ 4) リプロダクティブヘルス／ライツ 5) ヘルスプロモーション 6) 母性看護のあり方 7) 母性看護における倫理 2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性看護の歴史の変遷と現状 2) 母性看護の対象を取り巻く環境 3. 母性看護の対象理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2) 女性のライフサイクルと家族 4. 母性看護に必要な看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性看護における看護技術 2) 情報収集・アセスメント技術 3) 母性看護に使われる看護技術 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. グループワークへの参加とレポート提出 3. 授業態度、出席点を加味する 		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院		
備考	参考資料：国民衛生の動向		

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科																																					
科目名	母子の健康を整える看護 講義・30時間・1単位	教員名	上田 良枝・柴田 貴子																																					
概要 及び 目的	周産期のウェルネスにある母子の生理的变化と特徴を理解し、母子および母子を取り巻く人々に対して必要な基礎的な看護を学習する。																																							
授業内容	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>妊娠とは・・・～妊娠の成立について</td> <td rowspan="6">母性看護学各論・資料</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>染色体・分裂～羊水の機能</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>胎児の生理～母体の生理的機能</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>母体の生理的变化～レオポルド触診法</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ネーグレ概算法～ハイリスク妊娠</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>妊娠中の栄養～妊娠中の心理</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>分娩とは～分娩の経過</td> <td>モデル人形・骨盤</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分娩各期の看護</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>分娩各期の看護～分娩の実際</td> <td>DVD</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>産褥期の身体的・心理的变化</td> <td rowspan="4">母性看護学各論・資料</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>産褥期の異常と看護</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>新生児の生理的变化</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>新生児の異常と看護</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>退院に向けた支援</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td>終講試験</td> </tr> </table>			1	妊娠とは・・・～妊娠の成立について	母性看護学各論・資料	2	染色体・分裂～羊水の機能	3	胎児の生理～母体の生理的機能	4	母体の生理的变化～レオポルド触診法	5	ネーグレ概算法～ハイリスク妊娠	6	妊娠中の栄養～妊娠中の心理	7	分娩とは～分娩の経過	モデル人形・骨盤	8	分娩各期の看護		9	分娩各期の看護～分娩の実際	DVD	10	産褥期の身体的・心理的变化	母性看護学各論・資料	11	産褥期の異常と看護	12	新生児の生理的变化	13	新生児の異常と看護	14	退院に向けた支援		15		終講試験
1	妊娠とは・・・～妊娠の成立について	母性看護学各論・資料																																						
2	染色体・分裂～羊水の機能																																							
3	胎児の生理～母体の生理的機能																																							
4	母体の生理的变化～レオポルド触診法																																							
5	ネーグレ概算法～ハイリスク妊娠																																							
6	妊娠中の栄養～妊娠中の心理																																							
7	分娩とは～分娩の経過	モデル人形・骨盤																																						
8	分娩各期の看護																																							
9	分娩各期の看護～分娩の実際	DVD																																						
10	産褥期の身体的・心理的变化	母性看護学各論・資料																																						
11	産褥期の異常と看護																																							
12	新生児の生理的变化																																							
13	新生児の異常と看護																																							
14	退院に向けた支援																																							
15		終講試験																																						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 筆記試験 グループワークへの参加とレポート提出 授業態度・出席点を加味する。 																																							
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院																																							
備考																																								

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科		
科目名	健康に障害がある母子の看護 講義・15時間・(女性の健康課題と看護と合わせて1単位)	教員名	杉原 弥香		
概要 及び 目的	周産期のウェルネスから逸脱した母子について理解し、母子及び家族に対して必要な援助を理解する。妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に起こりやすい異常について学ぶ。				
授業内容	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px dotted black;"> <p>1. 妊娠期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) ハイリスク妊娠と妊娠期の異常</p> <p>偶発全身性疾患</p> <p>妊娠期の感染症</p> <p>妊娠悪阻</p> <p>多胎妊娠流産</p> <p>血液型不適合妊娠</p> <p>早産</p> <p>過期妊娠</p> <p>子宮外妊娠</p> <p>常位胎盤早期剥離</p> <p>前置胎盤</p> <p>妊娠高血圧症候群</p> <p>2) ハイリスク妊婦・異常をきたした妊婦の治療と看護</p> <p>2. 分娩期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) 分娩期の異常</p> <p>産道の異常</p> <p>娩出力の異常</p> <p>胎児の異常による分娩障害</p> <p>胎児付属物の異常</p> <p>分娩時の損傷</p> <p>分娩第3期及び分娩直後の異常</p> <p>分娩時の異常出血</p> <p>産科処置</p> <p>帝王切開</p> <p>胎児機能不全</p> <p>死産</p> <p>2) 異常をきたした産婦の治療と看護</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>3. 産褥期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) 産褥期の異常</p> <p>進行性変化と退行性変化の異常</p> <p>褥婦の心理</p> <p>2) 異常をきたした褥婦の治療と看護</p> <p>4. 新生児期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) 新生児期の異常</p> <p>低出生体重児</p> <p>先天異常・障害を持つ新生児</p> <p>分娩外傷</p> <p>新生児仮死</p> <p>2) 異常をきたした新生児の治療と看護</p> </td> </tr> </table>			<p>1. 妊娠期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) ハイリスク妊娠と妊娠期の異常</p> <p>偶発全身性疾患</p> <p>妊娠期の感染症</p> <p>妊娠悪阻</p> <p>多胎妊娠流産</p> <p>血液型不適合妊娠</p> <p>早産</p> <p>過期妊娠</p> <p>子宮外妊娠</p> <p>常位胎盤早期剥離</p> <p>前置胎盤</p> <p>妊娠高血圧症候群</p> <p>2) ハイリスク妊婦・異常をきたした妊婦の治療と看護</p> <p>2. 分娩期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) 分娩期の異常</p> <p>産道の異常</p> <p>娩出力の異常</p> <p>胎児の異常による分娩障害</p> <p>胎児付属物の異常</p> <p>分娩時の損傷</p> <p>分娩第3期及び分娩直後の異常</p> <p>分娩時の異常出血</p> <p>産科処置</p> <p>帝王切開</p> <p>胎児機能不全</p> <p>死産</p> <p>2) 異常をきたした産婦の治療と看護</p>	<p>3. 産褥期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) 産褥期の異常</p> <p>進行性変化と退行性変化の異常</p> <p>褥婦の心理</p> <p>2) 異常をきたした褥婦の治療と看護</p> <p>4. 新生児期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) 新生児期の異常</p> <p>低出生体重児</p> <p>先天異常・障害を持つ新生児</p> <p>分娩外傷</p> <p>新生児仮死</p> <p>2) 異常をきたした新生児の治療と看護</p>
<p>1. 妊娠期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) ハイリスク妊娠と妊娠期の異常</p> <p>偶発全身性疾患</p> <p>妊娠期の感染症</p> <p>妊娠悪阻</p> <p>多胎妊娠流産</p> <p>血液型不適合妊娠</p> <p>早産</p> <p>過期妊娠</p> <p>子宮外妊娠</p> <p>常位胎盤早期剥離</p> <p>前置胎盤</p> <p>妊娠高血圧症候群</p> <p>2) ハイリスク妊婦・異常をきたした妊婦の治療と看護</p> <p>2. 分娩期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) 分娩期の異常</p> <p>産道の異常</p> <p>娩出力の異常</p> <p>胎児の異常による分娩障害</p> <p>胎児付属物の異常</p> <p>分娩時の損傷</p> <p>分娩第3期及び分娩直後の異常</p> <p>分娩時の異常出血</p> <p>産科処置</p> <p>帝王切開</p> <p>胎児機能不全</p> <p>死産</p> <p>2) 異常をきたした産婦の治療と看護</p>	<p>3. 産褥期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) 産褥期の異常</p> <p>進行性変化と退行性変化の異常</p> <p>褥婦の心理</p> <p>2) 異常をきたした褥婦の治療と看護</p> <p>4. 新生児期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) 新生児期の異常</p> <p>低出生体重児</p> <p>先天異常・障害を持つ新生児</p> <p>分娩外傷</p> <p>新生児仮死</p> <p>2) 異常をきたした新生児の治療と看護</p>				
評価方法	1. 筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院				
備考					

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科																											
科目名	女性の健康課題と看護 講義・15時間・(健康に障害がある母子の看護と合わせて1単位)	教員名	柴田 貴子																											
概要及び目的	生殖機能の発達段階からあらわした胎児期、小児期、思春期、成熟期、更年期、老年期をととした女性の健康課題を理解し、看護を学ぶ。リプロダクティブヘルス/ライツの概念のもと女性の健康問題を理解し、必要な看護を学ぶ。																													
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>内容</th> <th>授業構成</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>胎児期の看護 ・ 出生前診断 幼児期の看護 ・ 基本的愛着形成</td> <td>講義・プリント</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>思春期の看護 ・ 月経周期の確立 ・ 月経異常 ・ 心理的变化</td> <td>講義・プリント</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>思春期の看護 ・ 思春期の事例をととして</td> <td>グループワーク</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>思春期の看護 ・ 思春期の特徴 a) 第二次性徴 b) 性感染症 c) たばこ・アルコール d) 性教育</td> <td>講義・プリント</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>成熟期の看護 ・ 妊娠、出産 ・ 家族計画 ・ 不妊症</td> <td>講義・プリント</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>女性生殖器疾患 (子宮癌・卵巣癌・乳癌など) 更年期の看護 ・ 閉経とホルモン変動 ・ 閉経による影響 (更年期障害・骨粗鬆症・排泄障害・精神疾患など)</td> <td>講義・プリント</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>老年期の看護 【総まとめ】</td> <td>講義・プリント</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>終講試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				内容	授業構成	①	胎児期の看護 ・ 出生前診断 幼児期の看護 ・ 基本的愛着形成	講義・プリント	②	思春期の看護 ・ 月経周期の確立 ・ 月経異常 ・ 心理的变化	講義・プリント	③	思春期の看護 ・ 思春期の事例をととして	グループワーク	④	思春期の看護 ・ 思春期の特徴 a) 第二次性徴 b) 性感染症 c) たばこ・アルコール d) 性教育	講義・プリント	⑤	成熟期の看護 ・ 妊娠、出産 ・ 家族計画 ・ 不妊症	講義・プリント	⑥	女性生殖器疾患 (子宮癌・卵巣癌・乳癌など) 更年期の看護 ・ 閉経とホルモン変動 ・ 閉経による影響 (更年期障害・骨粗鬆症・排泄障害・精神疾患など)	講義・プリント	⑦	老年期の看護 【総まとめ】	講義・プリント	⑧	終講試験	
	内容	授業構成																												
①	胎児期の看護 ・ 出生前診断 幼児期の看護 ・ 基本的愛着形成	講義・プリント																												
②	思春期の看護 ・ 月経周期の確立 ・ 月経異常 ・ 心理的变化	講義・プリント																												
③	思春期の看護 ・ 思春期の事例をととして	グループワーク																												
④	思春期の看護 ・ 思春期の特徴 a) 第二次性徴 b) 性感染症 c) たばこ・アルコール d) 性教育	講義・プリント																												
⑤	成熟期の看護 ・ 妊娠、出産 ・ 家族計画 ・ 不妊症	講義・プリント																												
⑥	女性生殖器疾患 (子宮癌・卵巣癌・乳癌など) 更年期の看護 ・ 閉経とホルモン変動 ・ 閉経による影響 (更年期障害・骨粗鬆症・排泄障害・精神疾患など)	講義・プリント																												
⑦	老年期の看護 【総まとめ】	講義・プリント																												
⑧	終講試験																													
評価方法	1. 筆記試験 2. グループワークへの参加とレポート提出 3. 授業態度・出席点を加味する																													
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院																													
備考																														

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	母子への看護を展開するための技術 講義・15時間・1単位	教員名	柴田 貴子・上田 良枝
概要 及び 目的	周産期の看護に必要な基本的技術を習得し、ウェルネスの視点からの看護実践能力を養う。 また、周産期に必要な看護の視点を事例展開し学習する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の看護展開 2. 周産期の看護実践 レオポルド触診法 沐浴 光線療法 ほか 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループワークへの参加とレポート提出 2. 授業態度・出席点を加味する 		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院 配布資料		
備考			

年次・学期	2年次・前～後期	担当科	看護学科																											
科目名	精神看護学概論 講義・30時間・1単位	教員名	岡田 麻理子・横山 なおみ																											
概要及び目的	精神看護学の考え方を明確にした上で、精神保健福祉制度の動向を踏まえて、心の働きに影響される人間関係、環境、危機状況など幅広い視点から看護を考え、対象者とその家族への援助を行うための基礎的学習を深める。																													
授業内容	<p>担当：岡田 授業時間数：前期 15時間（7コマ+終講試験） 学習目標：1. 精神医療の現状と課題が理解できる 2. 心のしくみと発達を理解できる 3. 精神看護の対象と目的が理解できる 4. 精神看護の専門性が理解できる</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>精神看護学概論の導入 精神看護の考え方 1. 日本における精神医療の現状と課題 2. 精神の健康と精神障害</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>心のしくみと発達1 精神分析と精神力動理論 自我の構造、防衛機制、意識</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>心のしくみと発達2 1. 発達理論 エリクソン、フロイト 2. 対象関係論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>心の危機と成長 1. 危機理論とストレス理論 2. ストレスとコーピング</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人間と集団 1. グループダイナミクス 2. 患者 看護師関係</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>援助関係を構築する技術 1. プロセスレコード 2. コミュニケーション技術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>精神看護の役割と機能 精神看護と法律 精神科病院の特徴、精神保健福祉法、精神保健指定医、人権擁護</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>終講試験（筆記）</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>担当：横山 なおみ</p> <p>1. 社会のなかの精神障害</p> <p>A. 精神障害と治療の歴史（現在に至るまでの欧米における治療と処遇の歴史を学ぶ）</p> <p>B. 日本における精神医学・精神医療の流れ（日本における治療と処遇の歴史を学ぶ）</p> <p>C. 精神障害と文化（国際化が進み文化の違いがあるなかでの相互理解について考える）</p> <p>D. 精神障害と社会学（社会的な差別偏見の仕組みについて学び社会的包摂を理解する）</p> <p>E. 精神障害と法制度</p> <p>①精神科看護と法律</p> <p>②精神科領域で必要な法律と制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護に関する法律と制度 ・医療を受けるための法律と制度 ・生活を支えるための法律と制度 ・個別の課題に対応した法律 <p>③法律・制度における課題</p> <p>④主な精神保健医療福祉対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自殺、うつ病対策 ・薬物、アルコール依存症対策 ・認知症対策 ・てんかん対策 <p>2. 地域における精神保健と精神看護</p> <p>A. 精神障害をもちながら地域で暮らす人々を支える</p> <p>①「入院をどう考えるか」</p> <p>②長期入院患者の地域移行への支援</p> <p>③ケアマネジメントの発想と方法</p> <p>④クライアントとしてのコミュニティ</p> <p>B. 地域で生活するための原則</p> <p>①当事者が知っておくべきこと</p> <p>②援助者が心得ておくべきこと</p> <p>C. 生活を支えるための社会資源・サービス</p> <p>①相談支援</p> <p>②医療にかかわるサービス</p> <p>③生活を支えるサービス</p> <p>④一般就労に向けての支援</p> <p>⑤当事者のエンパワメントのためのサービス</p> <p>D. 地域での看護の実際（5事例を通して支援のポイントを理解する）</p> <p>E. 学校における精神保健と精神看護</p> <p>①学校という場とメンタルヘルス</p> <p>②学校で精神保健・看護を担う専門職</p> <p>③学校におけるメンタルヘルスの問題と社会的取り組み</p> <p>④学校における精神保健への取り組みの実際</p> <p>F. 職場における精神保健と精神看護</p> <p>①労働者の心の健康（メンタルヘルス）の現状</p> <p>②メンタルヘルス制度と職場復帰支援制度</p> <p>③職場でのメンタルヘルス支援の実際</p>			回数	内容	備考	1	精神看護学概論の導入 精神看護の考え方 1. 日本における精神医療の現状と課題 2. 精神の健康と精神障害		2	心のしくみと発達1 精神分析と精神力動理論 自我の構造、防衛機制、意識		3	心のしくみと発達2 1. 発達理論 エリクソン、フロイト 2. 対象関係論		4	心の危機と成長 1. 危機理論とストレス理論 2. ストレスとコーピング		5	人間と集団 1. グループダイナミクス 2. 患者 看護師関係		6	援助関係を構築する技術 1. プロセスレコード 2. コミュニケーション技術		7	精神看護の役割と機能 精神看護と法律 精神科病院の特徴、精神保健福祉法、精神保健指定医、人権擁護		8	終講試験（筆記）	
回数	内容	備考																												
1	精神看護学概論の導入 精神看護の考え方 1. 日本における精神医療の現状と課題 2. 精神の健康と精神障害																													
2	心のしくみと発達1 精神分析と精神力動理論 自我の構造、防衛機制、意識																													
3	心のしくみと発達2 1. 発達理論 エリクソン、フロイト 2. 対象関係論																													
4	心の危機と成長 1. 危機理論とストレス理論 2. ストレスとコーピング																													
5	人間と集団 1. グループダイナミクス 2. 患者 看護師関係																													
6	援助関係を構築する技術 1. プロセスレコード 2. コミュニケーション技術																													
7	精神看護の役割と機能 精神看護と法律 精神科病院の特徴、精神保健福祉法、精神保健指定医、人権擁護																													
8	終講試験（筆記）																													
評価方法	1. 筆記試験																													
テキスト	『精神看護の基礎』医学書院 『精神看護の展開』医学書院																													
備考																														

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	精神障がいをもつ人の理解 講義・30時間・1単位	教員名	和辻 健太 他
概要 及び 目的	精神障がいの現れ方の特徴と主な精神疾患の原因、診断、治療について理解し、精神に障がいをきたした個人とその家族に対する看護を打つ上での、基礎的学習を深める。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害のとらえ方 2. 精神障がいの病因と分類 3. 精神障がいの症状と病理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神症状（知覚・思考・感情・意識・意欲や行動・知能・記憶などの障がい） 2) 状態像（不安・幻覚・妄想・抑うつ・無為・精神運動興奮・昏迷など） 4. 精神障がいのある人の診断と検査・治療 5. 精神疾患の理解（統合失調症・気分障害・器質性精神障害・神経症性障害・ストレス関連障害・心因精神病・人格障害・てんかんなど） 		
評価方法	1. 筆記試験		
テキスト	『精神看護の基礎』医学書院 『精神看護の展開』医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科																																										
科目名	精神障がいをもつ人の看護 講義・45時間（20 - 25）・2単位	教員名	狩屋 徹・岡田 麻理子																																										
概要及び目的	精神看護概論や精神保健、精神障害の成り立ちで学んだことを統合し、患者一看護師間の成立・発展の必要性を理解し、精神に障害をきたした個人とその家族に対して、障がいの状態に応じた基本的看護について学習する。																																												
授業内容	担当：岡田 授業時間数：25時間（12コマ+終講試験） 学習目標：1. 精神に障がいをもつ人とその家族を理解する。 2. 心の危機的状況にある対象者への安全・安楽な看護を理解する。 3. 心の回復過程にある対象者の自立への支援を理解する。 4. 精神看護の役割を理解する。																																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>精神に障がいをもつ人の理解①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>精神に障がいをもつ人の理解②</td> <td>レポート提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>心の危機的状況にある人（急性期）の看護① 統合失調症①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>心の危機的状況にある人（急性期）の看護② 統合失調症②</td> <td>事例を用いた看護展開①</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>心の危機的状況にある人（急性期）の看護③ 統合失調症③</td> <td>事例を用いた看護展開② 授業終了後、課題提出あり</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>心の危機的状況にある人（急性期）の看護④ 統合失調症④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>心の回復過程にある人（回復期）の看護① 統合失調症⑤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>心の回復過程にある人（回復期）の看護② 統合失調症⑥</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>疾患別看護 感情障がい</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>疾患別看護 依存症</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>疾患別看護 パーソナリティ障がい</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>疾患別看護 神経症</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>終講試験（筆記試験）</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	備考	1	精神に障がいをもつ人の理解①		2	精神に障がいをもつ人の理解②	レポート提出	3	心の危機的状況にある人（急性期）の看護① 統合失調症①		4	心の危機的状況にある人（急性期）の看護② 統合失調症②	事例を用いた看護展開①	5	心の危機的状況にある人（急性期）の看護③ 統合失調症③	事例を用いた看護展開② 授業終了後、課題提出あり	6	心の危機的状況にある人（急性期）の看護④ 統合失調症④		7	心の回復過程にある人（回復期）の看護① 統合失調症⑤		8	心の回復過程にある人（回復期）の看護② 統合失調症⑥		9	疾患別看護 感情障がい		10	疾患別看護 依存症		11	疾患別看護 パーソナリティ障がい		12	疾患別看護 神経症		13	終講試験（筆記試験）	
	回	内容	備考																																										
	1	精神に障がいをもつ人の理解①																																											
	2	精神に障がいをもつ人の理解②	レポート提出																																										
	3	心の危機的状況にある人（急性期）の看護① 統合失調症①																																											
	4	心の危機的状況にある人（急性期）の看護② 統合失調症②	事例を用いた看護展開①																																										
	5	心の危機的状況にある人（急性期）の看護③ 統合失調症③	事例を用いた看護展開② 授業終了後、課題提出あり																																										
	6	心の危機的状況にある人（急性期）の看護④ 統合失調症④																																											
	7	心の回復過程にある人（回復期）の看護① 統合失調症⑤																																											
	8	心の回復過程にある人（回復期）の看護② 統合失調症⑥																																											
	9	疾患別看護 感情障がい																																											
	10	疾患別看護 依存症																																											
	11	疾患別看護 パーソナリティ障がい																																											
	12	疾患別看護 神経症																																											
13	終講試験（筆記試験）																																												
担当：狩屋 授業時間数：（10コマ+終講試験） 1. ケアの人間関係 1) ケアの原則と方法 2) 患者一看護師関係の構築 2. 精神科における看護の役割 1) 精神科におけるリスクマネジメント																																													
評価方法	1. 筆記試験 2. 課題レポート																																												
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ「精神看護の基礎」精神看護学① 医学書院 「精神看護の展開」精神看護学② 医学書院																																												
備考																																													

年次・学期	3年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	成人看護学実習Ⅰ (生命危機状態・周手術期にある人への看護) 実習・135時間・3単位	教員名	都甲 裕美
概要 及び 目的	<p>危機的状況にある人の生命を守り、経過をそった変化をとらえ、回復を支える看護を理解する。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年の臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>		
授業内容	<p>【目標】 危機的状況にある人の生命を守り、経過にそった変化をとらえ、回復を支える看護を理解する。</p> <p>【実習のねらい】 突然の事故や急激な健康破綻、侵襲的な治療など生命が危機的状況にある人は、状態の変化が速く、迅速な治療や処置が行われる。そのため、経過にそった生体反応の変化をとらえ、合併症を予測した注意深い観察とアセスメントが必要であることを理解する。</p> <p>また、危機的状況に直面した人の治療・処置・検査が成人期にある人の生活に及ぼす影響を踏まえ、健康状態を悪化させる要因を取り除き、回復に向かうための看護を理解する。さらに入院時から退院後の生活を予測して行われる多職種による支援のあり方について学ぶ。</p>		
評価方法	<p>学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行い、合格は60点以上とする。可否の可否は審議し、決定する。</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 成人看護学総論① 呼吸器② 循環器③ 脳・神経⑦ 腎・泌尿器⑧ 女性生殖器⑨ 医学書院 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来／病棟における術前看護第2版 2 術中／術後の生体反応と急性期看護第2版 医歯薬出版 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院</p>		
備考			

年次・学期	3年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	成人看護学実習Ⅱ (生活習慣の改善・緩和ケアを必要とする人への看護) 実習・135時間・3単位	教員名	清水 恵子
概要及び目的	<p>継続的治療および長期に症状コントロールを必要とする人が、自らの健康と生活をマネジメントしながらよりよく生きていくことを支える看護を理解する。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年の臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>		
授業内容	<p>【目標】 継続治療および長期に症状コントロールを必要とする人が、自らの健康と生活をマネジメントしながらよりよく生きていくことを支える看護を理解する。</p> <p>【実習のねらい】 成人期にある人は、社会の担い手として仕事を持ち、働き、生活を営んでいる。慢性的な健康障害により継続治療および長期に症状コントロールを必要とする場合、自らの健康と生活をマネジメントしていくことが必要である。そのため、看護者は健康障害により身体におこっている様々な変化をとらえ、その人にとって症状が健康と生活にどのような影響を及ぼしているかを理解し、患者が主体的に自分の状態をセルフマネジメントできるように学習を支援し、行動変容を支える看護の必要性を理解する。さらに、治療することが困難な状況にある人への緩和ケアのあり方について学ぶ。</p>		
評価方法	<p>学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行い、合格は60点以上とする。可否の可否は審議し、決定する。</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 臨床看護総論④ 成人看護学総論① 呼吸器② 循環器③ 消化器⑤ 脳・神経⑦ 腎・泌尿器⑧ 医学書院 ナーシンググラフィカ 成人看護学⑦ 緩和ケア メディカ出版</p>		
備考			

年次・学期	3年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	老年看護学実習Ⅰ 実習・90時間・2単位	教員名	有松 実里
概要及び目的	<p>施設で暮らす高齢者の健康状態および生活状態を理解し、高齢者のQOLを高め個別性に応じた看護を実践できる能力を身につける。また、保健医療福祉サービスにつちえ理解し、他職種の中での看護の役割と援助について考える。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>		
授業内容	<p style="text-align: center;">老年看護学実習Ⅰ－(1) (生活援助を必要とする高齢者の看護)</p> <p>【目標】 施設に入居している高齢者との関わりを通して、認知機能や生活機能の低下が生活に及ぼす影響をふまえ、その人らしく充実した生活を過ごすための看護について学ぶ。</p> <p>【実習のねらい】 高齢者は複数の疾患をもち、症状や経過も典型的ではなく、観察された徴候が加齢に伴う心身機能の低下か、疾患によるものなのかを見極めることが難しい。療養生活の場は高齢者の終の棲家になることもありうるので、なるべく高齢者の日常生活に近づけ、その人らしく充実した生活の継続性につながる看護が必要である。その高齢者の生まれ育った環境や地域、職業、趣味、価値観、家族や周囲の人との関係などさまざまな要素がその人の生活を形づけていることを理解しながら、加齢による認知機能や生活機能が生活に及ぼす影響を考え、対象者が無理のない日常生活を継続するセルフケア能力を育てるように支援し、その人らしく充実した生活を送るための看護の役割を学ぶ。</p> <p style="text-align: center;">老年看護学実習Ⅰ－(2) (療養・リハビリテーションを必要とする高齢者の看護)</p> <p>【目標】 施設に入所し、リハビリテーションを必要とする高齢者とその家族との関わりを通して、認知機能や生活機能の低下が生活に及ぼす影響をふまえ、在宅復帰にむけた看護の役割について学ぶ。</p> <p>【実習のねらい】 高齢者が安心して療養生活の場から日常生活の場に戻ることができるように、医療と看護・介護を引き継ぐ支援が必要となる。高齢者自身が健康状態を意識し、活動と休息のバランスを考え日常生活を継続するためのセルフケア能力を保つことができるような援助が重要となる。そして、ヘルスケアシステムを活用し、在宅での生活が可能になるために必要な看護の役割を学ぶ。</p> <p>※ヘルスケアシステムとは、さまざまな制度、政策、保健医療福祉施設、在宅サービス機関などのフォーマル、近隣やボランティアなどのインフォーマルな資源ならびに連携のこと。</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいてⅠ－(1)、Ⅰ－(2)それぞれで評価を行い、合格は60点以上とする。 ・ 合格の可否は審議し、決定する。 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習要項 2. 参考書 系統看護学講座 「老年看護学」医学書院 系統看護学講座 「老年看護 病態・疾患論」医学書院 		
備考			

年次・学期	3年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	老年看護学実習Ⅱ (治療を必要とする高齢者の看護) 実習・90時間・2単位	教員名	宗次 美登理
概要及び目的	<p>老年期の特性をふまえ、対象の健康レベルや生活状況を総合的に理解し、対象の個別性に応じた看護が、実践できる能力を身につける。</p> <p>また、実践を通して、保健医療福祉チームにおける看護の役割について理解する。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年の臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>		
授業内容	<p>【目標】</p> <p>入院治療を必要とする高齢者への看護実践をとおして、健康状態と加齢変化が高齢者に及ぼす影響を考えながら、起こりうるリスクを最小化し、もてる力を引き出し、退院支援や地域連携の考え方を知り、高齢者への看護の特徴と看護師の役割を理解する。</p> <p>【実習のねらい】</p> <p>高齢者は加齢の進行に伴い様々な機能低下（身体的・精神的・社会的）を余儀なくされる。また、疾患に罹患すると慢性化しやすく、障害をかかえて生活することが多くなる。そのため、入院治療により本来の疾病とは関係なく日常生活動作（ADL）や精神機能の低下、家庭での役割の喪失などを防ぐとともに、対象者が目ざしうる生活機能の回復を最大限に促すための看護が重要となる。また、高齢者はいかなる状態にあっても尊厳に値し、その人独自のニーズと個性の発現が尊重されなければならない。看護師は高齢者の立場に立って医療チームに仲介する代弁者として権利擁護の役割を果たすことが求められる。</p> <p>この実習では、入院治療を必要とする対象者を受け持ち、加齢変化と疾患との関連性や相違を考えながら、疾患からくる特異的な症状だけでなく、高齢者の特徴である非特異的な症状の現れ方などを考慮し、対象者の日々の様子と常に比較しながら、対象者の今の状態を観察し、判断した結果を看護につなげていくことが重要となる。また、入院治療により起こりうる老年症候群などのリスクが軽減でき、対象者や家族のニーズを考慮し対象者の尊厳を守り、目指しうる生活機能の回復に向かえるような看護を実践する。さらに、ヘルスケアシステムの活用をふまえた退院支援と地域連携の考え方を学び、高齢者への看護の特徴と看護師の役割を理解する。</p> <p>※ヘルスケアシステムとは、さまざまな制度、政策、保健医療福祉施設、在宅サービス機関などのフォーマル、近隣やボランティアなどのインフォーマルな資源ならびに連携のこと。</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行い、合格は60点以上とする。 ・可否の可否は審議し、決定する。 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習要項 2. 参考書：系統看護学講座：9 老年看護学」医学書院 系統看護学講座：9 老年看護 病態・疾患論」医学書院 		
備考			

年次・学期	3年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	小児看護学実習 実習・90時間・2単位	教員名	山下 敬子
概要 及び 目的	<p>子どもの各期の成長発達について理解を深め、健やかな成長発達を促すための子どもとその家族に必要な看護について学ぶ。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年の臨床経験を有する教員と看護として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>		
授業内容	<p>小児看護学実習Ⅰ（健康な子どもの理解と援助） 【目標】 健康は乳幼児の日常生活行動を実際の保育活動をとおして、身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 【実習のねらい】 小児看護の対象である子どもは、各時期の発達課題を達成しながら、成熟に向けてつねに変化する存在である。したがって、健やかな成長発達を促すためには、個々の発達状況に合わせた支援が必要であり、子どもたちの成長発達の特徴を理解することは、小児看護を学ぶ上で重要である。そのため、保育園に通園している子どもたちを対象に基本的な生活習慣や遊びなどをとおして、子どもがみずからの持てる力と環境との相互作用の中で成長発達している事を知り、各時期の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。また、子どもを一人のひととして尊重した態度で接することの大切さを学ぶ。</p> <p>小児看護学実習Ⅱ（発達障害のある子どもの理解と援助） 【目標】 発達障害児通園施設に通園している子どもと関わり、一人ひとりの特性に応じた関わり的重要性と、家族への支援の必要性を学ぶ。 【実習のねらい】 発達障害のある子どもとその家族が望む日常生活や社会生活を営めるよう援助するために、起こりやすい健康問題や発達の特徴を知る事が重要である。その上で、発達を促進する事、家族の障害のとらえ方を確認し、その障害の受容段階にそった支援が必要である。 発達障害通園施設では、基本的な生活習慣を身につけ、コミュニケーション力を高めて、集団生活の中で社会性を高めることを目的に療育されている。そのため、通園している子どもと関わり、個々の特性に合わせた療育の必要性について学ぶ。また、子どもとの関わりから、障害を持つ子どもの家族の思いについて考え、家族への支援の必要性を理解する。</p> <p>小児看護学実習Ⅲ（健康障害のある子どもの看護） 【目標】 健康障害を持つ子どもとその家族に対する健康の保持・増進と回復を支えるための看護を学ぶ。 【実習のねらい】 子どもは成長発達過程にあり機能的に未熟で、病気になると重篤になりやすい。そのため早期に入院して治療を必要とすることが多い。入院治療では、苦痛を伴う処置等が多く、子どもにとってストレスが高い環境である。子どもは苦痛を周囲の人に適切に伝えられないこと、症状やその見通しなどを十分理解できないことから不安や恐怖、いらだちをつのらせる状況にある。したがって、症状の原因を取り除く治療、苦痛を緩和する治療を緩和する治療を迅速かつ安全に受けられるように援助することが看護の重要な役割である。 健康障害を持つ子どもを身体的・精神的・社会的な側面から理解し、療養生活の中でストレスを軽減するための援助について学ぶ。また、治療や検査は子どもにさまざまな侵襲を与える。子ども自身が治療や検査へ主体的に参加できるように意思決定の支援の重要性について考える。さらに、子どもを看護する上で家族は欠かせない存在である。そのため、子どもだけではなく、家族を含めた看護の重要性を学ぶ。</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいてⅠ・Ⅱ・Ⅲそれぞれで評価を行う。 ・可否の可否は審議し、決定する。 		
テキスト	<p>系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論① 医学書院 小児臨床看護各論② 医学書院</p>		
備考			

年次・学期	3年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	母性看護学実習 実習・90時間・2単位	教員名	柴田 貴子
概要 及び 目的	<p>妊婦、産婦、褥婦、新生児、乳児の各期の生理的変化をふまえ、対象に応じた看護を学ぶ。 また、新しい生命を迎える家族に必要な看護の役割について学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年の臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>		
授業内容	<p>母性看護学実習Ⅰ（周産期の看護） 【目標】 妊婦、産婦、褥婦、新生児やその家族との関わりをとおして、母体の生理的変化や母子相互作用、母子を取り巻く環境を考えながら、生命の尊さを理解し、母子や家族への援助が実践できる。</p> <p>【実習のねらい】 命を育む女性は、自らの健康を整え、家族とともに産まれくる児を慈しみ、健全に育成する存在である。そのため、母性特有の身体的精神的な変化に対してウェルネスの視点で支援する必要がある。この実習では、妊娠、分娩、産褥、新生児各期の生理的過程を理解し、母子とその家族を同時に看護することを学び、社会背景や環境が母子へ与える影響に対して必要な援助について理解する。また、近年のハイリスク妊産婦の増加に伴い、正常から逸脱するリスクが高まると考えられるため、それを判断する知識と技術を体験を通して学ぶ。そして、次世代を生き育てる過程の出発点になる母子の愛着形成を促し親性の育成について考えるとともに、女性の社会的役割や核家族化の背景を踏まえ、退院後の支援体制を理解する。</p> <p>母性看護学実習Ⅱ（乳児期の看護） 【目標】 乳児との関わりをとおして、養育者との相互作用における愛着形成について理解し、乳児のニーズをとらえながら成長発達を促すために必要な看護を理解する。</p> <p>【実習のねらい】 乳児が心身ともに健全に成長・発達して将来の社会生活に適応していくためには、本来は、家庭において両親と愛着関係を形成し、温かい愛情と適切な家庭環境のもとに育成されることが基本となる。乳児院は、何らかの事情で親が養育できない児を社会的に養護している児童福祉施設である。両親と離れて暮らす乳児にとっては、養育者その他の児との集団生活の関わりによって情緒の安定が保証され、豊かな人格が形成される暮らしの場である。特に乳児の愛着形成を促進するために、家庭的な環境の中で基本的信頼を形成する必要性を学ぶ実習とする。また、日常生活の援助をとおして、乳児の特徴と養育環境について学ぶ。更に看護師の役割と、そこで協働している多職種との連携から育児支援の重要性を学ぶ。</p>		
評価方法	<p>学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいてⅠ・Ⅱそれぞれで評価を行い、合格は60点以上とする。 可否の可否は審議し、決定する。</p>		
テキスト	<p>1. 実習要項 2. 自己学習ファイル 3. 参考書：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院</p>		
備考			

年次・学期	3年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	精神看護学実習 実習・90時間・2単位	教員名	岡田 麻理子
概要及び目的	<p>精神に障がいがある対象者の自立性の回復を支援し、その人の自己実現を支えるための看護を学ぶ。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年の臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>		
授業内容	<p>【目標】 対象者との治療的関係の構築をとおして精神に障がいがある対象者の精神症状が生活に及ぼす影響を理解し、対象者の自律性の回復を支援する。</p> <p>【実習のねらい】 精神に障がいがある対象者は幻聴や妄想などの精神症状の痛みだけでなく、社会生活での生きにくさやセルフスティグマなど様々な苦痛をもちながら生活している。精神看護ではこのような対象者の思いや葛藤に耳を傾けながらその人のよりよい生き方を支援することが重要である。その為には対象者が他者との関わりをとおして対人関係のスキルを学習できる環境が必要であり、看護師はその治療環境の一部である。</p> <p>この実習では対象者の疾患だけではなく、ありのままのその人を理解し、自律性を高める看護の重要性について学ぶ。また、精神医療では法律に基づいて対象者自身の意思によらない入院や治療が行われることもある。しかし、どのような状況下においても対象者が自己決定できるように看護師はアドボケートとしての役割も担っていることを学ぶ。</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリック評価表を用いて行い、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とする。 ・学生自己評価、教員・指導者評価に基づいて行う。 ・合格の可否は審議し、決定する。 		
テキスト	<p>1. 実習要項 2. 学習ファイル ポートフォリオ・リフレクションノート</p> <p>参考書：系統看護学講座 専門Ⅱ「精神看護の基礎」精神看護学① 医学書院 「精神看護の展開」精神看護学② 医学書院</p> <p>系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院</p>		
備考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	看護学科																											
科目名	在宅看護概論 講義・15 時間・1 単位	教員名	双田 清美																											
概要 及び 目的	急速な高齢化・少子化の進展とともに、地域や在宅で療養者の生活を支えていくための諸制度は整備されてきている。一方、医学・医療技術の進歩は在宅療養を可能にし、医療機能の分化、連携の推進により在宅看護の重要性は高まっている。このような現状に対応し、地域で生活しながら療養する人々とその家族の状況を理解するとともに、在宅看護の中心的な活動である訪問看護について理解する。																													
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. オリエンテーション 2. ① DVD 視聴をとおして訪問看護についてイメージする</td> <td>DVD 視聴</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1. 「在宅の看護師の役割・必要な力」を考える 2. パフォーマンス課題提示 3. 課題解決に取り組む（個人）</td> <td>講義 自己学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>課題解決に向けた講義 『在宅看護のしくみ（訪問看護を中心に）』</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>『在宅看護の実際と現状』</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>パフォーマンス課題に取り組む</td> <td>自己学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>パフォーマンス課題に取り組む</td> <td>自己学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1. パフォーマンス課題の相互評価 2. まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>終講試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回	授業内容	授業形態	1	1. オリエンテーション 2. ① DVD 視聴をとおして訪問看護についてイメージする	DVD 視聴	2	1. 「在宅の看護師の役割・必要な力」を考える 2. パフォーマンス課題提示 3. 課題解決に取り組む（個人）	講義 自己学習	3	課題解決に向けた講義 『在宅看護のしくみ（訪問看護を中心に）』	講義	4	『在宅看護の実際と現状』	講義	5	パフォーマンス課題に取り組む	自己学習	6	パフォーマンス課題に取り組む	自己学習	7	1. パフォーマンス課題の相互評価 2. まとめ		8	終講試験	
回	授業内容	授業形態																												
1	1. オリエンテーション 2. ① DVD 視聴をとおして訪問看護についてイメージする	DVD 視聴																												
2	1. 「在宅の看護師の役割・必要な力」を考える 2. パフォーマンス課題提示 3. 課題解決に取り組む（個人）	講義 自己学習																												
3	課題解決に向けた講義 『在宅看護のしくみ（訪問看護を中心に）』	講義																												
4	『在宅看護の実際と現状』	講義																												
5	パフォーマンス課題に取り組む	自己学習																												
6	パフォーマンス課題に取り組む	自己学習																												
7	1. パフォーマンス課題の相互評価 2. まとめ																													
8	終講試験																													
評価方法	知識：終講試験 思考・判断・表現：レポート・資料 技能：資料の工夫																													
テキスト	系統看護学講座『在宅看護論』医学書院 国民衛生の動向																													
備考																														

年次・学期	2 年次・前期	担当科	看護学科															
科目名	在宅での生活行動を支える技術 講義・15 時間・1 単位	教員名	定金 直美															
概要 及び 目的	在宅で療養する学習用架空事例対象者の関連図や提案書をとおして、対象者やその家族の現状と課題、健康上のニーズを把握し、必要な資源（社会福祉制度他）の活用を促し、支援を受けながら自律的な生活を送ることができるような在宅看護の必要性を理解する。ここでは、特に在宅での療養者の生活行動を看護師としてどのように支えるか、理解する。																	
授業内容	<p>①コマ 学習用架空事例の導入 ②コマ③コマ 学習用架空事例と関連図にグループで取り組み ④コマ 事例の発表 ⑤コマ 各自担当の提案書作成 ⑥コマ 他者評価 ⑦コマ まとめ</p> <p style="text-align: center;"><課題>学習用架空事例 個人提案書 評価基準表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>レベル</th> <th>評価の観点</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A：この訪問看護師の訪問看護なら自宅での療養生活が安心して継続できるのでぜひこれから来てほしい。 すばらしい。15 点</td> <td>対象者の現在の看護上の課題がアセスメントをふまえて明確であり、対象者の目標や看護が根拠に基づき、個別性のある内容となっている。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案も根拠に基づき、個別性のある内容となっている。</td> <td><input type="checkbox"/> 3 回目の訪問 <input type="checkbox"/> 季節 <input type="checkbox"/> 本人の思い <input type="checkbox"/> 病状や今後の進行をふまえた状況の把握</td> </tr> <tr> <td>B：この訪問看護師の訪問看護なら自宅での療養生活ができそう、これからも来てほしい。 よい。10 点</td> <td>対象者の現在の看護上の課題がアセスメントをふまえて明確であり、対象者の目標や看護がおおよそ根拠に基づき、おおよそ個別性のある内容となっている。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案もおおよそ根拠に基づき、おおよそ個別性のある内容となっている。</td> <td><input type="checkbox"/> 服薬状況 <input type="checkbox"/> ADL の状態 <input type="checkbox"/> 生活背景・環境 <input type="checkbox"/> 家族の思い・健康状態 <input type="checkbox"/> 社会資源の活用</td> </tr> <tr> <td>C：この訪問看護師の訪問看護だと自宅での療養生活が継続できるかちょっと不安なので、訪問看護師を代えてもらおうかな。 努力が必要。5 点</td> <td>対象者の現在の看護上の課題のアセスメントをが不十分であり、対象者の目標や看護の根拠に基づいた内容が不足している。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案は偏っている。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D：評価の対象外 0 点</td> <td>内容の著しい不足、または提出条件や期限が守られていない。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			レベル	評価の観点	ポイント	A：この訪問看護師の訪問看護なら自宅での療養生活が安心して継続できるのでぜひこれから来てほしい。 すばらしい。15 点	対象者の現在の看護上の課題がアセスメントをふまえて明確であり、対象者の目標や看護が根拠に基づき、個別性のある内容となっている。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案も根拠に基づき、個別性のある内容となっている。	<input type="checkbox"/> 3 回目の訪問 <input type="checkbox"/> 季節 <input type="checkbox"/> 本人の思い <input type="checkbox"/> 病状や今後の進行をふまえた状況の把握	B：この訪問看護師の訪問看護なら自宅での療養生活ができそう、これからも来てほしい。 よい。10 点	対象者の現在の看護上の課題がアセスメントをふまえて明確であり、対象者の目標や看護がおおよそ根拠に基づき、おおよそ個別性のある内容となっている。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案もおおよそ根拠に基づき、おおよそ個別性のある内容となっている。	<input type="checkbox"/> 服薬状況 <input type="checkbox"/> ADL の状態 <input type="checkbox"/> 生活背景・環境 <input type="checkbox"/> 家族の思い・健康状態 <input type="checkbox"/> 社会資源の活用	C：この訪問看護師の訪問看護だと自宅での療養生活が継続できるかちょっと不安なので、訪問看護師を代えてもらおうかな。 努力が必要。5 点	対象者の現在の看護上の課題のアセスメントをが不十分であり、対象者の目標や看護の根拠に基づいた内容が不足している。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案は偏っている。		D：評価の対象外 0 点	内容の著しい不足、または提出条件や期限が守られていない。	
	レベル	評価の観点	ポイント															
A：この訪問看護師の訪問看護なら自宅での療養生活が安心して継続できるのでぜひこれから来てほしい。 すばらしい。15 点	対象者の現在の看護上の課題がアセスメントをふまえて明確であり、対象者の目標や看護が根拠に基づき、個別性のある内容となっている。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案も根拠に基づき、個別性のある内容となっている。	<input type="checkbox"/> 3 回目の訪問 <input type="checkbox"/> 季節 <input type="checkbox"/> 本人の思い <input type="checkbox"/> 病状や今後の進行をふまえた状況の把握																
B：この訪問看護師の訪問看護なら自宅での療養生活ができそう、これからも来てほしい。 よい。10 点	対象者の現在の看護上の課題がアセスメントをふまえて明確であり、対象者の目標や看護がおおよそ根拠に基づき、おおよそ個別性のある内容となっている。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案もおおよそ根拠に基づき、おおよそ個別性のある内容となっている。	<input type="checkbox"/> 服薬状況 <input type="checkbox"/> ADL の状態 <input type="checkbox"/> 生活背景・環境 <input type="checkbox"/> 家族の思い・健康状態 <input type="checkbox"/> 社会資源の活用																
C：この訪問看護師の訪問看護だと自宅での療養生活が継続できるかちょっと不安なので、訪問看護師を代えてもらおうかな。 努力が必要。5 点	対象者の現在の看護上の課題のアセスメントをが不十分であり、対象者の目標や看護の根拠に基づいた内容が不足している。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案は偏っている。																	
D：評価の対象外 0 点	内容の著しい不足、または提出条件や期限が守られていない。																	
	<p>各自で グループで作成した対象者の外見、家の間取りをふまえて3 回目の訪問時に看護師として何をするか考え、実施（指導や確認も含む）するための具体的な内容を提案書としてまとめる。（A3 用紙 1 枚）</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ ・対象者の現在の看護上の課題 ・本日実施する具体的な内容とその根拠 <ul style="list-style-type: none"> ・今後検討した方がよい社会福祉制度の提案とその根拠 ・参考文献 ・裏にクラス・グループ・番号・氏名 																	
評価方法	グループ資料（5 点）、各自プレゼンテーション資料（15 点）、終講試験（80 点） その他、氏名未記載などの不備・出席状況・取組態度により減点や欠課にします。また、終講試験に落ちると再試験は 10 点満点で臨むようになります。																	
テキスト	『在宅看護論』医学書院 系統看護学講座 老年看護学、医学書院 配布資料																	
備考																		

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科																											
科目名	医療依存度の高い療養者を支える技術 講義・30時間・1単位	教員名	定金 直美																											
概要 及び 目的	「医療機能の分化・連携の推進による切れ目のない医療の提供」「地域包括ケアシステムの構築による高齢者の生活の質（QOL）の向上」がいわれ、在宅において医療依存度の高い療養者を支える看護の役割はますます高まっている。本科目では、在宅において頻度の高い診療の補助に関する看護技術を学ぶ。																													
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>総時間数</th> <th>コマ数</th> <th>単元</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2H</td> <td>①</td> <td>医療依存度の高い療養者を在宅で支える制度について</td> </tr> <tr> <td>4H</td> <td>② ③</td> <td>在宅中心静脈療法（HPN）を受ける療養者の在宅での看護</td> </tr> <tr> <td>2H</td> <td>④</td> <td>膀脱留置カテーテルを装着中の療養者の在宅での看護 （実施方法がわかるテキスト等を準備してください）</td> </tr> <tr> <td>4H</td> <td>⑤ ⑥</td> <td>在宅酸素療法を受ける（HOT）療養者の在宅での看護 （呼吸器テキストを準備してください）</td> </tr> <tr> <td>4H</td> <td>⑦ ⑧</td> <td>気管カニューレを装着中の療養者の在宅看護 （呼吸器テキストを準備してください）</td> </tr> <tr> <td>8H</td> <td>⑨ ⑩ ⑪ ⑫</td> <td><事例：ALS療養者の在宅での看護を理解する> 人工呼吸器を装着し、胃瘦を造設している療養者の看護を考える （必要なテキストを準備してください）</td> </tr> <tr> <td>2H</td> <td>⑬</td> <td>事例に関すること</td> </tr> <tr> <td>2H</td> <td>⑭</td> <td>まとめ</td> </tr> </tbody> </table>			総時間数	コマ数	単元	2H	①	医療依存度の高い療養者を在宅で支える制度について	4H	② ③	在宅中心静脈療法（HPN）を受ける療養者の在宅での看護	2H	④	膀脱留置カテーテルを装着中の療養者の在宅での看護 （実施方法がわかるテキスト等を準備してください）	4H	⑤ ⑥	在宅酸素療法を受ける（HOT）療養者の在宅での看護 （呼吸器テキストを準備してください）	4H	⑦ ⑧	気管カニューレを装着中の療養者の在宅看護 （呼吸器テキストを準備してください）	8H	⑨ ⑩ ⑪ ⑫	<事例：ALS療養者の在宅での看護を理解する> 人工呼吸器を装着し、胃瘦を造設している療養者の看護を考える （必要なテキストを準備してください）	2H	⑬	事例に関すること	2H	⑭	まとめ
総時間数	コマ数	単元																												
2H	①	医療依存度の高い療養者を在宅で支える制度について																												
4H	② ③	在宅中心静脈療法（HPN）を受ける療養者の在宅での看護																												
2H	④	膀脱留置カテーテルを装着中の療養者の在宅での看護 （実施方法がわかるテキスト等を準備してください）																												
4H	⑤ ⑥	在宅酸素療法を受ける（HOT）療養者の在宅での看護 （呼吸器テキストを準備してください）																												
4H	⑦ ⑧	気管カニューレを装着中の療養者の在宅看護 （呼吸器テキストを準備してください）																												
8H	⑨ ⑩ ⑪ ⑫	<事例：ALS療養者の在宅での看護を理解する> 人工呼吸器を装着し、胃瘦を造設している療養者の看護を考える （必要なテキストを準備してください）																												
2H	⑬	事例に関すること																												
2H	⑭	まとめ																												
評価方法	パフォーマンス課題（20点） 終講試験 80点（復習シート提出点含む）																													
テキスト	『在宅看護論』医学書院 系統看護学講座 呼吸器〔2〕 脳神経〔7〕 腎・泌尿器〔8〕 医学書院																													
備考																														

年次・学期	1 年次・後期	担当科	看護学科
科目名	障がいをもつ人の理解と支援 (知的障害・発達障害の理解) 講義・15 時間・(障がいをもつ人の理解と支援(重症心身障害者の看護)と合わせて1単位)	教員名	新谷 義和 他
概要 及び 目的	心身に障害をもつ人の生活の中心は、社会福祉施設である場合も少なくない。本授業では、わが国の障害者医療福祉施策について常に先駆的な役割を果たしている旭川荘をモデルとして理解するとともに、そこで生活する知的障害や発達障害をもつ人に対する医療福祉サービスの実際について体験的に学習する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉法人旭川荘について <ol style="list-style-type: none"> 1) 旭川荘の歴史及び旭川荘の現状と課題 (2H) 2) 資料館及び敬愛館見学 (2H) 2. 社会福祉施設の役割と対象者の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 知的障害児(者)・発達障害児(者)の就労支援他(2H) 2) 当事者の方の講演(元ハンセン病療養者等)(2H) 3. 障害者支援または知的障害児入所施設におけるふれあい実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習に向けて心構え(2H) 2) ふれあい実習(4H) 3) 事後レポート 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 2. 出席点を加味する 		
テキスト	必要に応じ資料提示		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	障がいをもつ人の理解と支援 (重症心身障害者の看護) 講義・15時間・(障がいをもつ人の理解と支援(知的障害・発達障害の理解)と合わせて1単位)	教員名	看護学科教員
概要及び目的	重症心身障害者を理解し、かけがえのない命への畏敬や障がいもち生活している対象者のノーマライゼーション、社会参加への理解、QOLの向上のための看護を学ぶ。また、他職種と連携し多様な社会資源の活用を図り、医療保健福祉チームのなかの一員としての看護の役割を学ぶ。		
授業内容	1. 重症心身障害児・者の看護 (12H) <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の特性 2) 看護の役割 3) 重症心身障害児・者にみられる主な症状と看護 2. 障害をもつ当事者の思い・家族の思いを知る <ol style="list-style-type: none"> 1) 重症心身障害者の家族の方の講演 (2H) 2) 事後レポート (1H) 		
評価方法	1. 筆記試験 2. レポート		
テキスト	必要に応じ資料提示 配布資料		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科																																						
科目名	国際看護・災害看護 講義・30時間（15－15）・1単位	教員名	岩本 美代子・浅越 博之																																						
概要及び目的	<p><国際看護> 世界の健康課題を理解し、その対策の取り組みを理解する。国内での健康課題が世界と密接に関係している現状を理解し看護師の役割と協力の重要性を学ぶ。</p> <p><災害看護> 災害発生時の準備、災害発生直後から復旧時、中長期までの各期における看護支援活動を学ぶ。</p>																																								
授業内容	<p><国際看護></p> <table border="1"> <tr> <th>回数</th> <th></th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>国際看護を学ぶ意義 世界の健康問題の現状 国際看護学の定義・対象 国際協力（国連機関・政府機関・非政府組織）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>用語の理解・国際協力のしくみ 諸外国の現状について調べる （ルワンダ・バングラディシュ・インド・フィリピン）</td> </tr> <tr> <td>3・4</td> <td>非政府組織（NGO）の活動</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>国際機関：主に国連児童基金（ユニセフ）の活動 ブルキナファソ（アフリカ）の現状について調べる</td> </tr> <tr> <td>6・7</td> <td>国際機関の役割と実際の活動について</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>グローバルヘルス、国際協力をふまえて看護の役割について考える</td> </tr> </table> <p>この科目は、終講試験の筆記試験はない。 評価は、出席点、外部講師の講義前後のレポート内容等で評価をする。 <u>特に外部講師の首席、聴講姿勢、講義前後のレポートについては配点を大きくしている。</u></p> <p><災害看護></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>授業内容</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1コマ</td> <td>・災害医療、看護の概要 DVD：災害看護概論・災害と看護ニーズ</td> <td>講義 DVD</td> </tr> <tr> <td>2コマ</td> <td>・救急医療と災害医療について ・災害時に起こりやすい疾病について</td> <td>講義 DVD</td> </tr> <tr> <td>3コマ</td> <td>・災害経過別の看護活動について DVD：実践編「災害看護への取り組み」急性期～中長期</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4コマ</td> <td>・災害発生（直後）のトリアージについて ・START 法の実際 ・トリアージタグの記載方法と取り扱いについて</td> <td>講義 DVD</td> </tr> <tr> <td>5コマ</td> <td>・救急蘇生法について ・急変対応、急激な状態変化をアセスメントする</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6・7 コマ</td> <td>・一時救命処置（BLS）、二次救命処置（ACLS） 蘇生用人形を使った演習 リズム棟にて ・災害時のこころのケアについて</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="2">2コマ目以降は、授業開始時にミニテストを実施予定</td> </tr> </tbody> </table>			回数		1	国際看護を学ぶ意義 世界の健康問題の現状 国際看護学の定義・対象 国際協力（国連機関・政府機関・非政府組織）	2	用語の理解・国際協力のしくみ 諸外国の現状について調べる （ルワンダ・バングラディシュ・インド・フィリピン）	3・4	非政府組織（NGO）の活動	5	国際機関：主に国連児童基金（ユニセフ）の活動 ブルキナファソ（アフリカ）の現状について調べる	6・7	国際機関の役割と実際の活動について	8	グローバルヘルス、国際協力をふまえて看護の役割について考える		授業内容	授業形態	1コマ	・災害医療、看護の概要 DVD：災害看護概論・災害と看護ニーズ	講義 DVD	2コマ	・救急医療と災害医療について ・災害時に起こりやすい疾病について	講義 DVD	3コマ	・災害経過別の看護活動について DVD：実践編「災害看護への取り組み」急性期～中長期		4コマ	・災害発生（直後）のトリアージについて ・START 法の実際 ・トリアージタグの記載方法と取り扱いについて	講義 DVD	5コマ	・救急蘇生法について ・急変対応、急激な状態変化をアセスメントする	講義	6・7 コマ	・一時救命処置（BLS）、二次救命処置（ACLS） 蘇生用人形を使った演習 リズム棟にて ・災害時のこころのケアについて	講義	備考	2コマ目以降は、授業開始時にミニテストを実施予定	
回数																																									
1	国際看護を学ぶ意義 世界の健康問題の現状 国際看護学の定義・対象 国際協力（国連機関・政府機関・非政府組織）																																								
2	用語の理解・国際協力のしくみ 諸外国の現状について調べる （ルワンダ・バングラディシュ・インド・フィリピン）																																								
3・4	非政府組織（NGO）の活動																																								
5	国際機関：主に国連児童基金（ユニセフ）の活動 ブルキナファソ（アフリカ）の現状について調べる																																								
6・7	国際機関の役割と実際の活動について																																								
8	グローバルヘルス、国際協力をふまえて看護の役割について考える																																								
	授業内容	授業形態																																							
1コマ	・災害医療、看護の概要 DVD：災害看護概論・災害と看護ニーズ	講義 DVD																																							
2コマ	・救急医療と災害医療について ・災害時に起こりやすい疾病について	講義 DVD																																							
3コマ	・災害経過別の看護活動について DVD：実践編「災害看護への取り組み」急性期～中長期																																								
4コマ	・災害発生（直後）のトリアージについて ・START 法の実際 ・トリアージタグの記載方法と取り扱いについて	講義 DVD																																							
5コマ	・救急蘇生法について ・急変対応、急激な状態変化をアセスメントする	講義																																							
6・7 コマ	・一時救命処置（BLS）、二次救命処置（ACLS） 蘇生用人形を使った演習 リズム棟にて ・災害時のこころのケアについて	講義																																							
備考	2コマ目以降は、授業開始時にミニテストを実施予定																																								
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 筆記試験 出席点を加味する レポート 演習点 																																								
テキスト	系統看護学講座 統合分野3「災害看護学・国際看護学」医学書院 系統看護学講座 専門2「基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ」医学書院																																								
備考																																									

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科																										
科目名	看護と倫理 講義・15時間・1単位	教員名	寺岡 仁子																										
概要及び目的	<p>看護の対象はさまざまな価値観をもち、看護ニーズも異なるため、対象の理解を十分に行い、それぞれに応じた最善の看護が必要とされる。そのために、看護師は人として求められる一般的な倫理性や看護師として求められる倫理性を有している必要がある。</p> <p>そこで講義では、看護倫理の基礎を理解し、事例を通して具体的な倫理判断の方法を学ぶ。また、自己の看護実践の分析を通して看護実践に内土する倫理を追求し、対象の価値や信念、意向を尊重した看護を実践していくための価値観と最善の看護を実現しようとする意思を養成する。</p>																												
授業内容	<p>Goal</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理の原則を理解できる。 2. 看護倫理の問題へのアプローチを考えることができる。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義</td> <td>看護倫理概論について学習します。 南江掌の「看護倫理」を持参してください。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>講義 グループワーク</td> <td>倫理問題へのアプローチについて学びます。 南江掌の「看護倫理」を持参してください。 2回以降はグループごとに着席してください。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>グループワーク</td> <td rowspan="2">グループで事例検討を行い、まとめます。(提出)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>グループワーク</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>グループ発表</td> <td>1G 2G 3G (発表10分、質疑応答・感想15分)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>グループ発表</td> <td>4G 5G 6G (発表10分、質疑応答・感想15分)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>グループ発表</td> <td>7G 8G 9G (発表10分、質疑応答・感想15分)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>まとめ</td> <td>授業のまとめの後、学びを書いて提出していただきます。</td> </tr> </tbody> </table> <p>・事例については、9事例こちらで用意します。 ・グループについてはこちらでランダムに決めております。</p>			授業回数	授業内容	備考	1	講義	看護倫理概論について学習します。 南江掌の「看護倫理」を持参してください。	2	講義 グループワーク	倫理問題へのアプローチについて学びます。 南江掌の「看護倫理」を持参してください。 2回以降はグループごとに着席してください。	3	グループワーク	グループで事例検討を行い、まとめます。(提出)	4	グループワーク	5	グループ発表	1G 2G 3G (発表10分、質疑応答・感想15分)	6	グループ発表	4G 5G 6G (発表10分、質疑応答・感想15分)	7	グループ発表	7G 8G 9G (発表10分、質疑応答・感想15分)	8	まとめ	授業のまとめの後、学びを書いて提出していただきます。
授業回数	授業内容	備考																											
1	講義	看護倫理概論について学習します。 南江掌の「看護倫理」を持参してください。																											
2	講義 グループワーク	倫理問題へのアプローチについて学びます。 南江掌の「看護倫理」を持参してください。 2回以降はグループごとに着席してください。																											
3	グループワーク	グループで事例検討を行い、まとめます。(提出)																											
4	グループワーク																												
5	グループ発表	1G 2G 3G (発表10分、質疑応答・感想15分)																											
6	グループ発表	4G 5G 6G (発表10分、質疑応答・感想15分)																											
7	グループ発表	7G 8G 9G (発表10分、質疑応答・感想15分)																											
8	まとめ	授業のまとめの後、学びを書いて提出していただきます。																											
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況・授業態度 2. グループワークへの参加状況、発表など(メイン) 3. その他 <p>*筆記試験は行いません。</p>																												
テキスト	<p>南光堂『看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ』 (副本) 照林社 よくわかる『看護者の倫理綱領』 配布プリント</p>																												
備考																													

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	看護を提供するしくみ 講義・15時間・1単位	教員名	清水 恵子
概要 及び 目的	看護の対象となる人々に最も良質な看護を提供するしくみを理解し、医療チームの一員として看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とマネジメントについて 2. 看護ケアのマネジメント 3. 看護職のキャリアマネジメント 4. 看護サービスのマネジメントについて 5. マネジメントに必要な知識と技術について 6. 看護をとりまく諸制度について 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 出席点を加味する 		
テキスト	系統看護学講座：総合分野 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・通年	担当科	看護学科														
科目名	総合判断技術演習 演習・30時間・1単位	教員名	看護学科教員														
概要及び目的	<p>主要な症状を示し、治療・処置を必要とする事例への看護実践をとおして健康状態を整えるための看護の思考プロセスを理解する。</p>																
授業内容	総合判断技術演習Ⅰ																
	<p>〔目標〕 複数の事例対象者の状況をアセスメントし、今おこっている問題、今後予測される問題を整理し、必要な看護を考えることをとおして、看護の思考プロセスを理解する。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="3">・発達段階、健康障害の種類、健康の段階、生活過程の特徴、もてる力の5つの視点からアセスメントし、対象者の看護問題を整理し、関連図を作成する。(個人ワーク)</td> </tr> <tr> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>・個人ワークをもとに、各事例に対してグループとしての考えをまとめ、プレゼンテーションをおこない、全体としての学びを共有する。(グループワーク)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td rowspan="3">・プレゼンテーション後、グループで整理した看護問題に対して、看護計画を立案する。(個人ワーク)</td> </tr> <tr> <td>6</td> </tr> <tr> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内容	1	・発達段階、健康障害の種類、健康の段階、生活過程の特徴、もてる力の5つの視点からアセスメントし、対象者の看護問題を整理し、関連図を作成する。(個人ワーク)	2	3	4	・個人ワークをもとに、各事例に対してグループとしての考えをまとめ、プレゼンテーションをおこない、全体としての学びを共有する。(グループワーク)	5	・プレゼンテーション後、グループで整理した看護問題に対して、看護計画を立案する。(個人ワーク)	6	7		
回数	内容																
1	・発達段階、健康障害の種類、健康の段階、生活過程の特徴、もてる力の5つの視点からアセスメントし、対象者の看護問題を整理し、関連図を作成する。(個人ワーク)																
2																	
3																	
4	・個人ワークをもとに、各事例に対してグループとしての考えをまとめ、プレゼンテーションをおこない、全体としての学びを共有する。(グループワーク)																
5	・プレゼンテーション後、グループで整理した看護問題に対して、看護計画を立案する。(個人ワーク)																
6																	
7																	
授業内容	総合判断技術演習Ⅱ																
	<p>〔目標〕 対象者の状況・場面に応じた観察や必要な日常生活援助を実施するための看護の視点を理解する。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="6">(進め方) ・パフォーマンス課題を実施するために必要な学習をおこなう。</td> </tr> <tr> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> </tr> <tr> <td>4</td> </tr> <tr> <td>5</td> </tr> <tr> <td>6</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>知識テスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技術試験(術後患者への日常生活援助)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内容	1	(進め方) ・パフォーマンス課題を実施するために必要な学習をおこなう。	2	3	4	5	6	7	プレゼンテーション	8	知識テスト	
回数	内容																
1	(進め方) ・パフォーマンス課題を実施するために必要な学習をおこなう。																
2																	
3																	
4																	
5																	
6																	
7	プレゼンテーション																
8	知識テスト																
	技術試験(術後患者への日常生活援助)																
評価方法	<p>1. 演習出席点 2. 技術試験 3. 提出物</p>																
テキスト	<p>系統看護学講座 「基礎看護技術Ⅰ」 「臨床看護総論」 「別巻 臨床外科看護総論」医学書院</p>																
備考																	

年次・学期	3年次・通年	担当科	看護学科
科目名	在宅看護論実習 実習・90時間・2単位	教員名	定金 直美
概要及び目的	<p>地域で生活しながら療養する人々、あるいは障害をもちながら生活する人々それを支える人々を理解し、在宅における看護の方法を実践する。また、社会の動向に関心をもち、在宅看護の役割を理解する。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年の臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>		
授業内容	<p>在宅看護論実習Ⅰ（在宅支援実習） 【目標】 地域で生活しながら療養する人と家族がよりよい生活を送るために、看護師や他職種の支援や自分自身の体験をとおして看護を学ぶ。</p> <p>【実習のねらい】 地域で生活する療養者やその家族にとって、健康の知識がありまた生活の視点をもつ看護師は最も身近な存在であり、果たすべき役割は大きい。在宅看護論実習Ⅰでは、療養者とその家族の健康状態や療養生活を知ることで、よりよく生活するためにどのように看護師や他職種が支えているかを学ぶ。また、社会資源の活用や連携方法を理解することで在宅ケアの重要性を学ぶ。</p> <p>在宅看護論実習Ⅱ（重度障害をもつ人の支援実習） 【目標】 重度障害のある人の命を守り、よりよく生活するための看護の特徴を理解する。</p> <p>【実習のねらい】 重度障害のある人は、不可逆的な障害により自分で自分の命を守ること、また、自ら思いや願いを表現することが困難である。そのため看護師は、日々の生活からその人のわずかな変化を捉えるために、細やかに正確な観察をおこない、生命力の消耗を最小にするための看護に活かすことが重要である。</p> <p>また、人生のほとんどを施設で過ごす対象者にとって、その場所での生活は生きることをそのものである。特に、重度障害のある人にとっては「呼吸する」「食べる」「排泄する」「動く」など基本的な欲求が安全・安楽に営まれ、かつ充実することが重要である。この実習では、その人のもてる力を見出し高め、その人にとってよりよく生活できるように支えることを学ぶ。</p>		
評価方法	<p>学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいてⅠ・Ⅱそれぞれで評価を行い、合格は60点以上とする。</p> <p>可否の可否は審議し、決定する。</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 在宅看護論、社会福祉：医学書院 江草安彦監修 重症心身障害療育マニュアル：医歯薬出版 朝倉次男監修 重症心身障害児のトータルケア 新しい発達支援の方向性を求めて ：へるす出版</p>		
備考			

年次・学期	3年次・通年	担当科	看護学科
科目名	看護の統合と実践実習 実習・90時間・2単位	教員名	双田 清美
概要及び目的	<p>看護チームの一員の体験や複数患者を受け持つことをとおして、知識・技術・態度を統合し、看護実践力を身につける。また、保健医療福祉チームの一員として他職種との連携の必要性を理解し、責任ある行動がとれる。</p> <p>この目的をもって実習できるように看護師として長年の臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。</p>		
授業内容	<p>看護の統合と実践実習 I（看護のしくみの理解実習）・II（看護判断総合実習）</p> <p>目的 看護チームの一員の体験や複数患者を受け持つことをとおして、知識・技術・態度を統合し、看護実践力を身につける。また、保健医療福祉チームの一員として他職種との連携の必要性を理解し、責任ある行動がとれる。</p> <p>目標 看護師とともに複数患者を受け持ち、看護のしくみを理解するとともに、看護ケアのマネジメントの実際を学ぶ。また、医療チームの一員としての看護師の役割を理解する。</p> <p>1. 看護の統合と実践実習 I・IIのねらい</p> <p>1) 領域実習の集大成として看護職が提供するサービス全体の組織を調整、統制する「看護サービスのマネジメント」の視点を学ぶ。また、対象者に必要なケアを提供するために、それぞれ専門性をもつ医療チームの実際を講義や見学をとおして、チームの一員として連携や協働をする必要性を理解する。</p> <p>2) 看護師は24時間切れ目なく、複数の患者に対して業務の調整を行い、患者の不利益にならないようにケアを円滑に提供する。看護師とともに複数の患者を受け持ち、1日の業務の組み立て方や優先順位の決定、多重課題への対応など時間管理を行いながら実践し、看護を判断する根拠を理解する。また、夜間実習では、日中とは異なる患者や病棟の様子を体験し、その中で看護師がどのように業務を調整しているかを学ぶ。</p>		
評価方法	<p>学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行い、合格は60点以上とする。統合 I・II をあわせて総合評価とする。</p> <p>可否の可否は審議し、決定する。</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 看護学概論、看護管理：医学書院 小西恵美子著 看護倫理 よい看護よい看護師への道しるべ：南光堂 東京医科大学看護専門学校編著 よくわかる看護者の倫理綱領：照林社</p>		
備考			

